対象校No. 1059　　学校コード F146310111644
注４　　注３

設置年度　令和　５年度

計画の区分：　学部の設置
注１

認可

注2
鹿児島国際大学　看護学部

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書
（改正前大学設置基準適用）

学校法人津曲学園
令和６年５月１日現在

作成担当者	
担当部局（課）名	総務部
職名・氏名	総務部次長（ソウムブジチョウ）　相良（サガラ）　正（タダシ）
電話番号	099-261-3211（内線：4112）
（夜間）	099-261-3142（内線：　）
ｅ－mail	soumu@ofc.iuk.ac.jp

（注）１　「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。
２　大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院　・・・」と記入してください。
設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
（　）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。
例）　〇〇大学　△△学部　□□学科
（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））
表題は「計画の区分」に従い、記入してください。
例）
・大学の設置の場合：「〇〇大学」
・学部の設置の場合：「〇〇大学　△△学部」
・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科」
・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学　△△学科」
・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科」
・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院　〇〇研究科　〇〇専攻（修士課程）」
・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学　△△学部　□□学科（通信教育課程）」
３　学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。
なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。
https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html
４　対象校No.については、「【別紙】令和６年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞　　ページ

１．調査対象大学等の概要等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３
２．授業科目の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　７
３．施設・設備の整備状況、経費　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１７
４．既設大学等の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１８
５．教員組織の状況　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　１９
６．附帯事項等に対する履行状況等　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　３９
７．その他全般的事項　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　４１

1　調査対象大学等の概要等

（1）設　置　者

学校法人津曲学園

（2）大　学　名

鹿児島国際大学

（3）調査対象大学等の位置

〒891－0197
鹿児島県鹿児島市坂之上8-34-1
〒890－0005
鹿児島県鹿児島市下伊敷1-52-17

（注）・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を（　）書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

（4）管理運営組織

職　　名	設　　置　　時	変　更　状　況	備　　考
理 事 長	ツマガリ　サダトシ 津曲　貞利 （平成21年４月）		
学　　長	オオクボ　ユキオ 大久保　幸夫 （~~令和５~~平成31年４月）	コバヤシ　ジュンジ 小林　潤司 （令和５年４月）	設置認可申請時の学長就任年の修正および任期満了に伴い令和５年４月より学長変更（５）
学 部 長	ツツミ　ユミコ 堤　由美子 （令和５年４月）		
学科長等	チュウマン　ナリコ 中馬　成子 （令和５年４月）		

（注）・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を（　）書きで記入してください。
（例）令和５年度に報告済の内容　→（５）
令和６年度に報告する内容　→（６）
・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載（昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正）するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

（５） 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

（注）・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
・ 様式は、令和元年度開設の４年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和６年度までの６年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が７年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

（５）－① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
看護学部 看護学科 学士（看護学）	保健衛生学関係 （看護学関係）	4 年	80 人	2年次 0 人 3年次 0 人 4年次 0 人	320 人	－	

（注）・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第２号（その２の１））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「－」を選択。）

（５）－② 調査対象学部等の入学者の状況

区分＼対象年度	令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		春季入学以外の学期区分について	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	人 － （ － ） [－]	人	人 － （ － ） [－]	人	人 （ － ） [－]	人	人 （ － ） [－]	人	人 80 （ － ） [－]	人	人 80 （ － ） [－]	人	－	0.96倍	－	
志願者数	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	361 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	227 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]				
受験者数	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	355 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	226 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]				
合格者数	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	121 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	121 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]				
B 入学者数	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	81 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]	73 （ － ） [－]	－ （ － ） [－]				
入学定員超過率 B／A	－		－		－		－		1.01		0.91					

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「－」を記入してください。
・ （ ）内には、編入学の状況について**外数で**記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、（( ))書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。 該当がない年度には「－」を記入してください。
・ 転入学生は記入しないでください。
・ [ ]内には、留学生の状況について**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
・ 「入学定員超過率」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出**してください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「－」を選択。）
・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における５月１日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和７年度開設用）Ⅳ.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第１条第２項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第２項及び第４項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
・ 「（５）－② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「４ 既設大学等の状況」AC対象学部学科等倍率と一致しますので、留意して計算してください。

（５）－③　調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 / 学　年	令和元年度		令和２年度		令和３年度		令和４年度		令和５年度		令和６年度		備　　考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
１年次	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	81 [－] (－)	－ [－] (－)	73 [－]	－ [－]	
２年次			－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	78 [－] (－)	－ [－] (－)	
３年次					－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
４年次							－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	－ [－] (－)	
計	－ [－] (－)		－ [－] (－)		－ [－] (－)		－ [－] (－)		81 [－] (－)		151 [－] (－)		

（注）・　報告年度の５月１日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・　[　　]内には、留学生の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・（　）内には、留年者の状況について、**内数で**記入してください。該当がない年度には「－」を記入してください。
・　編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
・　学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「－」を記入してください。
また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
・　「計」については、**各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数**を記入してください。

（５）－④　調査対象学部等の退学者等の状況

区分 / 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳 入学した年度	退学者数	うち留学生数	主な退学理由（留学生の理由は[ ]書き）
令和元年度	－ 人	－ 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
令和2年度	－ 人	－ 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
令和3年度	－ 人	－ 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
令和4年度	－ 人	－ 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	－ 人	－ 人	
令和5年度	81 人	0 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	－ 人	－ 人	
			令和5年度	0 人	－ 人	
令和6年度	151 人	1 人	令和元年度	－ 人	－ 人	
			令和2年度	－ 人	－ 人	
			令和3年度	－ 人	－ 人	
			令和4年度	－ 人	－ 人	
			令和5年度	1 人	－ 人	本学他学科への転学科
			令和6年度	0 人	－ 人	
合　計		1 人		1 人	0 人	

（注）・ 数字は、報告年度の5月１日現在の数字を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
・ 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
・ 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください
・ 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下（〇人）」というように、その人数も含めて記入してください。
（記入項目例）・就学意欲の低下　・学力不足　・他の教育機関への入学・転学　・海外留学
・就職　・学生個人の心身に関する事情　・家庭の事情　・除籍　・その他

（５）－⑤　調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = -$ %

【令和2年度】

$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = -$ %

【令和3年度】

$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = -$ %

【令和4年度】

$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = -$ %

【令和5年度】

$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{81} = 0$ %

【令和6年度】

$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{151} = 0.66$ %

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

2　授業科目の概要

＜看護学部　看護学科＞

（1）ー① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	基礎科目	新入生ゼミナール		新入生ゼミナール	1前	2			4	4	3	4	2	
		数理・データサイエンス・AI	暮らし	データサイエンス・AI入門	1前		2							兼1
				情報処理	1前	2								兼1
				確率と統計	1後		2							兼1
		キャリアデザイン	人間	コミュニケーション力育成	1前後		2							兼2
				キャリア形成のための一般教養Ⅰ	1前		2							兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅱ	1後		2							兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅲ	3前		2							兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅳ	3後		2							兼1
			暮らし	論理的思考と数的処理	2後		2							兼1
				キャリア形成のための文章力育成	3前		2							兼1
				小計（　11科目）	―	4	18	0	4	4	3	4	2	兼6
	人間教養科目	人文科学	人間	日本文学	1前後		2							兼2
				外国文学	1前		2							兼1
				音楽文化論	1後		2							兼3
				日本史	1前後		2							兼2
				西洋史	1前後		2							兼1
				東洋史	1前後		2							兼1
				東西文化の交流	1前		2							兼1
				哲学	1前後		2							兼1
				倫理学	1前後		2							兼1
				心理学	1前後		2							兼3
				小計（　10科目）	―	0	20	0	0	0	0	0	0	兼16
		社会科学	暮らし	法学	1前		2							兼1
				日本国憲法	1前後	2								兼1
				政治学	1前		2							兼1
				経済学	1前後		2							兼3
				社会学	1後		2							兼1
				地理学	1前		2							兼1
				小計（　6科目）	―	2	10	0	0	0	0	0	0	兼8
		自然科学	暮らし	数学Ⅰ	1前		2							兼1
				数学Ⅱ	1後		2							兼1
			いのち	生命科学	1前後		2							兼1
				環境科学	1前後		2							兼2
				小計（　4科目）	―	0	8	0	0	0	0	0	0	兼3
		地域志向	暮らし	地域創生Ⅰ	1前		2							兼1
				地域創生Ⅱ	1後		2							兼1
			人間	Japanology	1後		2							兼5
			暮らし	地域から世界へ	1前		2							兼1
				かごしま教養プログラム	1前		2							兼2
				かごしまフィールドスクール	1前		2							兼2
				ボランティア活動	1後		2							兼1
			人間	海外インターンシップ	2前後		3							兼4
				教養特講Ⅰ	1前		2							兼1
			暮らし	教養特講Ⅱ	1後		2							兼1
				教養特講Ⅲ	1前		2							兼1
				小計（ 11科目）	―	0	23	0	0	0	0	0	0	兼15
	ミュニケーションスキルズ科目	英語 コア	人間	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1前	1								兼6
				英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1後	1								兼6
				英語海外研修	1前		2							兼1
				英語リーディング	1前後		1							兼4
				英語ライティング	1後		1							兼3
		関連		英文読解の技法	1前		2							兼1
				TOEIC・TOEFL対策	1後		2							兼1

【令和6年度】

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	基礎科目	新入生ゼミナール		新入生ゼミナール	1前	2			4	4	3	4	2	
		数理・データサイエンス・AI	暮らし	データサイエンス・AI入門	1前		2							兼1
				情報処理	1前	2								兼1
				確率と統計	**1前**		2							兼1
		キャリアデザイン	人間	コミュニケーション力育成	1前後		2							**兼1**
				キャリア形成のための一般教養Ⅰ	1前		2							兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅱ	1後		2							兼1
				キャリア形成のための一般教養Ⅲ	3前		2							
				キャリア形成のための一般教養Ⅳ	3後		2							
			暮らし	論理的思考と数的処理	2**前**後		2							兼1
				キャリア形成のための文章力育成	3前		2							兼1
				小計（　11科目）	―	4	18	0	4	4	3	4	2	**兼5**
	人間教養科目	人文科学	人間	日本文学	**1後**		2							**兼1**
				外国文学	1前		2							兼1
				音楽文化論	1後		2							**兼6**
				日本史	1前後		2							**兼1**
				西洋史	1前後		2							兼1
				東洋史	1前後		2							兼1
				東西文化の交流	1前		2							兼1
				哲学	1前後		2							兼1
				倫理学	1前後		2							兼1
				心理学	1前後		2							**兼4**
				小計（　10科目）	―	0	20	0	0	0	0	0	0	**兼18**
		社会科学	暮らし	法学	1前		2							兼1
				日本国憲法	1前後	2								兼1
				政治学	1前		2							兼1
				経済学	1前後		2							兼3
				社会学	**1前**		2							兼1
				地理学	1前		2							兼1
				小計（　6科目）	―	2	10	0	0	0	0	0	0	兼8
		自然科学	暮らし	数学Ⅰ	1前		2							兼1
				数学Ⅱ	1後		2							兼1
			いのち	生命科学	1前後		2							兼1
				環境科学	1前後		2							兼2
				小計（　4科目）	―	0	8	0	0	0	0	0	0	兼3
		地域志向	暮らし	地域創生Ⅰ	1前		2							兼1
				地域創生Ⅱ	1後		2							兼1
			人間	Japanology	1後		2							兼5
			暮らし	地域から世界へ	1前		2							兼1
				かごしま教養プログラム **（未開講）**	1前		2							兼2
				かごしまフィールドスクール	1前		2							兼2
				ボランティア活動	1後		2							兼1
			人間	海外インターンシップ	2前後		3							**兼2**
				教養特講Ⅰ **（未開講）**	1前		2							
			暮らし	教養特講Ⅱ **（未開講）**	1後		2							
				教養特講Ⅲ	1前		2							**兼2**
				小計（ 11科目）	―	0	23	0	0	0	0	0	0	**兼13**
	ミュニケーションスキルズ科目	英語 コア	人間	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1前	1								**兼6**
				英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1後	1								**兼6**
				英語海外研修 **（未開講）**	1前		2							兼1
				英語リーディング	**1前**		1							**兼3**
				英語ライティング	**1前後**		1							**兼4**
		関連		英文読解の技法	1前		2							兼1
				TOEIC・TOEFL対策	1後		2							兼1

科目区分				主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	コミュニケーションスキルズ科目	英語	関連	人間	コミュニケーションのための英文法	1前		2							兼1
					Global Economy and Business	1後		2							兼9
					小計（ 9科目）	―	2	12	0	0	0	0	0	0	兼16
		第二外国語	中国語		基礎中国語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎中国語Ⅱ	1後		1							兼1
			フランス語		基礎フランス語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎フランス語Ⅱ	1後		1							兼1
			ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1							兼1
			韓国語		基礎韓国語Ⅰ	1前		1							兼2
					基礎韓国語Ⅱ	1後		1							兼2
					韓国語海外研修	1前		2							兼1
					小計（ 9科目）	―	0	10	0	0	0	0	0	0	兼6
	スポーツ・健康科目	講義		健康	日常生活に生かすスポーツ科学	1前後		2							兼1
					現代社会とスポーツ	1前後	2								兼1
		実習			スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1前後		1							兼2
					スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1前後		1							兼3
					スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1前後		1							兼2
					スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1前		1							兼1
					スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1前後		1							兼2
					小計（ 7科目）	―	2	7	0	0	0	0	0	0	兼3
看護学科専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目		いのち	いのちをはぐくむ地球	1前	1								兼1
					地球で生きるいのち	1後	1								兼1
				人間	教育方法学	1前		2							兼1
					文化人類学	1前		2							兼1
					社会心理学	1後		2							兼1
					日本史特論	1後		2							兼1
					鹿児島の歴史	1前		2							兼1
					生涯発達論	2後	2								兼1
				暮らし	地域社会論	1前		2							兼1
					まちづくり概論	1前		2							兼1
					地域経済論	1後		2							兼1
					環境経済論Ⅰ	1前		2							兼1
					環境経済論Ⅱ	1後		2							兼1
					医療情報活用論	2後	1								兼1
					暮らしをまもる制度	2後	1								兼1
				健康	からだの仕組みと働きⅠ	1前	1								兼1
					からだの仕組みと働きⅡ	1後	1								兼1
					代謝と栄養	1後	1								兼2
					からだの異常と発生メカニズム	1後	1								兼1
					感染と防御	1後	1								兼1
					からだの異常の診断技術	1後	1								兼2
					薬理学	2前	1								兼1
					働く人の健康	1後	1								兼1
					健康障害とその治療Ⅰ	2前	1								兼4
					健康障害とその治療Ⅱ	2前	1								兼6
					健康障害とその治療Ⅲ	2前	1								兼2
					健康障害とその治療Ⅳ	2後	1								兼2
					保健統計学	2前	1								兼1
					疫学	2前	2								兼1
					健康をまもる法律	2前	1								兼1
					保健医療福祉行政論	2前	2			1	1				
					小計（ 31科目）	―	24	20	0	1	1	0	0	0	兼40
	専門科目		看護導入科目	いのち	いのちと看護	1後	1			3	1	1	1	2	
				人間	人間と看護	2前	1			1		1	3	2	
				暮らし	暮らしと看護	2後	1			1	3		4		
				健康	健康と看護	2後	1			1	3		2	1	
				看護	看護への招待	1前	1			7					
					小計（ 5科目）	―	5	0	0	8	6	2	7	4	0

科目区分				主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	コミュニケーションスキルズ科目	英語	関連	人間	コミュニケーションのための英文法	1前		2							兼1
					Global Economy and Business	1後		2							**兼7**
					小計（ 9科目）	―	2	12	0	0	0	0	0	0	**兼17**
		第二外国語	中国語		基礎中国語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎中国語Ⅱ	1後		1							兼1
			フランス語		基礎フランス語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎フランス語Ⅱ	1後		1							兼1
			ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1							兼1
			韓国語		基礎韓国語Ⅰ	1前		1							兼2
					基礎韓国語Ⅱ	1後		1							**兼1**
					韓国語海外研修 **（未開講）**	1前		2							
					小計（ 9科目）	―	0	10	0	0	0	0	0	0	**兼4**
	スポーツ・健康科目	講義		健康	日常生活に生かすスポーツ科学	1前後		2							兼1
					現代社会とスポーツ	1前後	2								兼1
		実習			スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	**1前**		1							兼2
					スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1前後		1							**兼2**
					スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1前後		1							**兼3**
					スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技） **（未開講）**	1前		1							
					スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1前後		1							**兼2**
					小計（ 7科目）	―	2	7	0	0	0	0	0	0	兼3
看護学科専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目		いのち	いのちをはぐくむ地球	1前	1								兼1
					地球で生きるいのち	1後	1								兼1
				人間	教育方法学	1前		2							兼1
					文化人類学	1前		2							兼1
					社会心理学	**1前**		2							兼1
					日本史特論	1後		2							兼1
					鹿児島の歴史	1前		2							兼1
					生涯発達論	2後	2								**兼2**
				暮らし	地域社会論	1前		2							兼1
					まちづくり概論	1前		2							兼1
					地域経済論	1後		2							兼1
					環境経済論Ⅰ	1前		2							兼1
					環境経済論Ⅱ	1後		2							兼1
					医療情報活用論	2後	1								兼1
					暮らしをまもる制度	2後	1								兼1
				健康	からだの仕組みと働きⅠ	1前	1								兼1
					からだの仕組みと働きⅡ	1後	1								兼1
					代謝と栄養	1後	1								兼2
					からだの異常と発生メカニズム	1後	1								兼1
					感染と防御	1後	1								兼1
					からだの異常の診断技術	1後	1								兼2
					薬理学	2前	1								**兼3**
					働く人の健康	1後	1								兼1
					健康障害とその治療Ⅰ	2前	1								兼4
					健康障害とその治療Ⅱ	2前	1								兼6
					健康障害とその治療Ⅲ	2前	1								兼2
					健康障害とその治療Ⅳ	2後	1								兼2
					保健統計学	2前	1								兼1
					疫学	2前	2								兼1
					健康をまもる法律	2前	1								兼1
					保健医療福祉行政論	2前	2			1	1				
					小計（ 31科目）	―	24	20	0	1	1	0	0	0	**兼43**
	専門科目		看護導入科目	いのち	いのちと看護	1後	1			3	1	1	1	2	
				人間	人間と看護	2前	1			1		1	3	2	
				暮らし	暮らしと看護	2後	1			1	3		4		
				健康	健康と看護	2後	1			1	3		2	1	
				看護	看護への招待	1前	1			**6**	**1**				
					小計（ 5科目）	―	5	0	0	**7**	**6**	2	7	4	0

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科専門教育科目	専門科目	看護実践コア科目	看護	看護学概論	1後	1			1	1				兼1
				援助関係論	1後	1			1	1		4	2	
				看護倫理	2後	1			1					兼1
				生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	1後	1			2	1	2	4	2	
				生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	1後	1				1	4	5	1	
				生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	2前	1			2	2	2	5		
				生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	2前	1			1	3	2	5		
				生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	2後	1			2		3	4	2	
				生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	2後	1			1	3	2	4	1	
				生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	2後	1			3	3	4	7	2	
				家族看護論	2後	1			1					兼1
				看護展開基礎論	2前	1			8	1	2	3		
				看護展開基礎実習	2前	2			6	3	4	5	3	
				小計（ 15科目）	—	16	0	0	8	5	4	8	4	兼3
		看護実践能力育成科目 健康増進看護		健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1後	1				3				
				健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1後	1			2		1			
				健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1後	1			1	1				
				健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1後	1				1				
				健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	2前	1			1				1	
				健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	2後	1			1	2			1	
				健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論実習	3前後	3			1	2			1	
				小計（ 9科目）	—	11	0	0	4	5	1	0	1	0
		健康回復看護		健康回復看護総論	2前	1				2				兼1
				健康回復過程論Ⅰ：急性-回復期・治療過程における看護	2前	1			1	2		3	2	
				健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	2前	1			2	1	1	3	1	
				健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	2後	1			1	2		3	2	
				成育健康回復ケア概論	2前	1			2		1			
				成人老年健康回復ケア概論	2前	1			2					
				精神・在宅健康回復ケア概論	2前	1			2					
				成育健康回復ケア論Ⅰ	2前	1			2		1	1		
				成育健康回復ケア論Ⅱ	2後	1			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論	2後	1			1	2		4	1	
				老年健康回復ケア論	2後	1			1		1	5	1	
				精神健康回復ケア論	2後	1			1	1		4	2	
				在宅健康回復ケア論	2後	1			1	1	1	2	3	
				健康回復看護総論実習	2前	1			7	1	2	2		
				成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3前後	3			2		1	1	2	
				成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3前後	3			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論実習	3前後	3			1	2		1		
				老年健康回復ケア論実習	3前後	3			1		1	1	1	
				精神健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				在宅健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				小計（ 20科目）	—	32	0	0	7	4	4	8	4	兼1
	統合科目	長期療養生活看護		長期療養生活看護総論	3後	1				1				
				長期療養生活ケア論	4前	1				2		3		
				長期療養生活ケア論実習	4前	2			1	1	2	3		
				小計（ 3科目）	—	4	0	0	1	2	2	5	0	0
		発展		健康増進ケア論発展実習	4前	2			1	2			1	
				看護管理論	4前	1			1					
				看護統合演習	4後	1			8	1	1			
			学部横断科目	地域包括チームケア論	3後	1			1	3	1	3		
				災害支援論	3後	1			2	3	1	2		兼2
				小計（ 5科目）	—	6	0	0	8	6	3	5	1	兼2
看護学科専門教育科目	専門科目	看護探究科目 探究	看護	暮らし探索フィールドワーク	1後	1			1	4	2	7	2	
				看護研究	2後	1			1		2			
				卒業研究Ⅰ	4前	1			8	6	3			
				卒業研究Ⅱ	4後	1			8	6	3			
				看護キャリア発達論	4後	1			3					
				小計（ 5科目）	—	5	0	0	8	6	4	7	2	0
合計（ 160科目）					—	113	128	0	8	6	4	8	4	兼101

卒業要件及び履修方法

「共通教育科目」で必修10単位，選択8単位以上，「専門基礎科目」で必修24単位，選択必修8単位以上，「専門科目」で必修79単位以上を修得し，合計129単位以上を修得すること。
履修科目の登録上限は48単位（年間）とする。

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科専門教育科目	専門科目	看護実践コア科目	看護	看護学概論	1後	1			1	1				兼1
				援助関係論	1後	1			1	1		4	2	
				看護倫理	2後	1			1					兼1
				生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	1後	1			2	1	2	4	2	
				生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	1後	1				1	4	5	1	
				生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	2前	1			2	2	2	5		
				生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	2前	1			1	3	2	5		
				生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	2後	1			2		3	4	2	
				生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	2後	1			1	3	2	4	1	
				生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	2後	1			2	4	4	7	2	
				家族看護論	2後	1			1					兼1
				看護展開基礎論	2前	1			7	2	2	3		
				看護展開基礎実習	2前	2			5	3	4	6	3	
				小計（ 15科目）	—	16	0	0	7	5	4	8	4	兼3
		看護実践能力育成科目 健康増進看護		健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1後	1				3				
				健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1後	1			2		1			
				健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1後	1			1	1				
				健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1後	1				1				
				健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	2前	1			1				1	
				健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	2後	1			1	2			1	
				健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論実習	3前後	3			1	2			1	
				小計（ 9科目）	—	11	0	0	4	5	1	0	1	0
		健康回復看護		健康回復看護総論	2前	1				2				兼1
				健康回復過程論Ⅰ：急性-回復期・治療過程における看護	2前	1			1	2		3	2	
				健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	2前	1			2	1	1	3	1	
				健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	2後	1				3		3	2	
				成育健康回復ケア概論	2前	1			2		1			
				成人老年健康回復ケア概論	2前	1			2		1			兼1
				精神・在宅健康回復ケア概論	2前	1			2					
				成育健康回復ケア論Ⅰ	2前	1			2		1	1		
				成育健康回復ケア論Ⅱ	2後	1			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論	2後	1			1	2		4	1	
				老年健康回復ケア論	2後	1			1		1	5	1	兼1
				精神健康回復ケア論	2後	1			1	1		4	2	
				在宅健康回復ケア論	2後	1			1	1	1	2	3	
				健康回復看護総論実習	2前	1			6	2	2	2		
				成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3前後	3			2		1	1	2	
				成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3前後	3			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論実習	3前後	3			1	2		1		
				老年健康回復ケア論実習	3前後	3					1	1	1	
				精神健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				在宅健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				小計（ 20科目）	—	32	0	0	6	4	4	8	4	兼2
	統合科目	長期療養生活看護		長期療養生活看護総論	3後	1				1				
				長期療養生活ケア論	4前	1				2		3		
				長期療養生活ケア論実習	4前	2			1	1	2	3		
				小計（ 3科目）	—	4	0	0	1	2	2	5	0	0
		発展		健康増進ケア論発展実習	4前	2			1	2			1	
				看護管理論	4前	1			1					
				看護統合演習	4後	1			7	1	1			
			学部横断科目	地域包括チームケア論	3後	1			1	3	1	3		
				災害支援論	3後	1			2	3	1	2		兼2
				小計（ 5科目）	—	6	0	0	7	6	3	5	1	兼2
看護学科専門教育科目	専門科目	看護探究科目 探究	看護	暮らし探索フィールドワーク	1後	1			1	4	2	7	2	
				看護研究	2後	1			1		2			
				卒業研究Ⅰ	4前	1			7	6	3			
				卒業研究Ⅱ	4後	1			7	6	3			
				看護キャリア発達論	4後	1			3					
				小計（ 5科目）	—	5	0	0	7	6	4	7	2	0
合計（ 160科目）					—	113	128	0	7	6	4	8	4	兼101

卒業要件及び履修方法

「共通教育科目」で必修10単位，選択8単位以上，「専門基礎科目」で必修24単位，選択必修8単位以上，「専門科目」で必修79単位以上を修得し，合計129単位以上を修得すること。
履修科目の登録上限は48単位（年間）とする。

【令和5年度】

科目区分				主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	基礎科目	新入生ゼミナール		暮らし	新入生ゼミナール	1前	2			4	4	3	4	2	
		数理・データサイエンス・AI			データサイエンス・AI入門	1前		2							兼1
					情報処理	1前	2								兼1
					確率と統計	1前		2							兼1
		キャリアデザイン		人間	コミュニケーション力育成	1前後		2							兼1
					キャリア形成のための一般教養Ⅰ	1前		2							兼1
					キャリア形成のための一般教養Ⅱ	1後		2							兼1
					キャリア形成のための一般教養Ⅲ	3前		2							兼1
					キャリア形成のための一般教養Ⅳ	3後		2							兼1
				暮らし	論理的思考と数的処理	2後		2							兼1
					キャリア形成のための文章力育成	3前		2							兼1
					小計（ 11科目）	―	4	18	0	4	4	3	4	2	兼6
	人間教養科目	人文科学		人間	日本文学	1後		2							兼1
					外国文学	1前		2							兼1
					音楽文化論	1後		2							兼6
					日本史	1前後		2							兼1
					西洋史	1前後		2							兼1
					東洋史	1前後		2							兼1
					東西文化の交流	1前		2							兼1
					哲学	1前後		2							兼1
					倫理学	1前後		2							兼1
					心理学	1前後		2							兼4
					小計（ 10科目）	―	0	20	0	0	0	0	0	0	兼19
		社会科学		暮らし	法学	1前		2							兼1
					日本国憲法	1前後	2								兼1
					政治学	1前		2							兼1
					経済学	1前後		2							兼3
					社会学	1後		2							兼1
					地理学	1前		2							兼1
					小計（ 6科目）	―	2	10	0	0	0	0	0	0	兼8
		自然科学		暮らし	数学Ⅰ	1前		2							兼1
					数学Ⅱ	1後		2							兼1
				いのち	生命科学	1前後		2							兼1
					環境科学	1前後		2							兼2
					小計（ 4科目）	―	0	8	0	0	0	0	0	0	兼3
		地域志向		暮らし	地域創生Ⅰ	1前		2							兼1
					地域創生Ⅱ	1後		2							兼1
				人間	Japanology	1後		2							兼5
				暮らし	地域から世界へ	1前		2							兼1
					かごしま教養プログラム	1前		2							兼2
					かごしまフィールドスクール	1前		2							兼2
					ボランティア活動	1後		2							兼1
				人間	海外インターンシップ	2前後		3							兼3
					教養特講Ⅰ（未開講）	1前		2							兼1
				暮らし	教養特講Ⅱ	1後		2							兼1
					教養特講Ⅲ（未開講）	1前		2							兼1
					小計（ 11科目）	―	0	23	0	0	0	0	0	0	兼15
	ミュニケーションスキルズ科目	英語	コア	人間	英語オーラル・コミュニケーションⅠ	1前	1								兼5
					英語オーラル・コミュニケーションⅡ	1後	1								兼5
					英語海外研修（未開講）	1前		2							兼1
					英語リーディング	1前		1							兼3
					英語ライティング	1前後		1							兼4
			関連		英文読解の技法	1前		2							兼1
					TOEIC・TOEFL対策	1後		2							兼1

科目区分				主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼担
看護学科共通教育科目	コミュニケーションスキルズ科目	英語	関連	人間	コミュニケーションのための英文法	1前		2							兼1
					Global Economy and Business	1後		2							兼7
					小計（ 9科目）	―	2	12	0	0	0	0	0	0	兼17
		第二外国語	中国語		基礎中国語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎中国語Ⅱ	1後		1							兼1
			フランス語		基礎フランス語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎フランス語Ⅱ	1後		1							兼1
			ドイツ語		基礎ドイツ語Ⅰ	1前		1							兼1
					基礎ドイツ語Ⅱ	1後		1							兼1
			韓国語		基礎韓国語Ⅰ	1前		1							兼2
					基礎韓国語Ⅱ	1後		1							兼2
					韓国語海外研修（未開講）	1前		2							
					小計（ 9科目）	―	0	10	0	0	0	0	0	0	兼5
	スポーツ・健康科目	講義		健康	日常生活に生かすスポーツ科学	1前後		2							兼1
					現代社会とスポーツ	1前後	2								兼1
		実習			スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）	1前		1							兼2
					スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）	1前後		1							兼2
					スポーツ実習Ⅲ（個人種目）	1前後		1							兼3
					スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）（未開講）	1前		1							
					スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）	1前後		1							兼1
					小計（ 7科目）	―	2	7	0	0	0	0	0	0	兼3

看護学科専門教育科目	専門基礎科目	看護構想科目		いのち	いのちをはぐくむ地球	1前	1								兼1
					地球で生きるいのち	1後	1								兼1
				人間	教育方法学	1前		2							兼1
					文化人類学	1前		2							兼1
					社会心理学	1前		2							兼1
					日本史特論	1後		2							兼1
					鹿児島の歴史	1前		2							兼1
					生涯発達論	2後	2								兼1
				暮らし	地域社会論	1前		2							兼1
					まちづくり概論	1前		2							兼1
					地域経済論	1後		2							兼1
					環境経済論Ⅰ	1前		2							兼1
					環境経済論Ⅱ	1後		2							兼1
					医療情報活用論	2後	1								兼1
					暮らしをまもる制度	2後	1								兼1
				健康	からだの仕組みと働きⅠ	1前	1								兼1
					からだの仕組みと働きⅡ	1後	1								兼1
					代謝と栄養	1後	1								兼2
					からだの異常と発生メカニズム	1後	1								兼1
					感染と防御	1後	1								兼1
					からだの異常の診断技術	1後	1								兼2
					薬理学	2前	1								兼1
					働く人の健康	1後	1								兼1
					健康障害とその治療Ⅰ	2前	1								兼4
					健康障害とその治療Ⅱ	2前	1								兼6
					健康障害とその治療Ⅲ	2前	1								兼2
					健康障害とその治療Ⅳ	2後	1								兼2
					保健統計学	2前	1								兼1
					疫学	2前	2								兼1
					健康をまもる法律	2前	1								兼1
					保健医療福祉行政論	2前	2			1	1				
					小計（ 31科目）	―	24	20	0	1	1	0	0	0	兼40
	専門科目		看護導入科目	いのち	いのちと看護	1後	1			3	1	1	1	2	
				人間	人間と看護	2前	1			1		1	3	2	
				暮らし	暮らしと看護	2後	1			1	3		4		
				健康	健康と看護	2後	1			1	3		2	1	
				看護	看護への招待	1前	1			6	1				
					小計（ 5科目）	―	5	0	0	8	6	2	7	4	0

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科専門教育科目	専門科目	看護実践コア科目		看護学概論	1後	1			1	1				兼1
				援助関係論	1後	1			1	1		4	2	
				看護倫理	2後	1			1					兼1
				生活機能援助論Ⅰ：安全をまもる機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅱ：生きるを支える機能	1前	1			1	2	3	3	2	
				生活機能援助論Ⅲ：食物・水分摂取を支える機能	1後	1			2	1	2	4	2	
				生活機能援助論Ⅳ：排便・排尿を支える機能	1後	1				1	4	5	1	
				生活機能援助論Ⅴ：動くを支える機能	2前	1			2	2	2	5		
				生活機能援助論Ⅵ：休むと情報交換を支える機能	2前	1			1	3	2	5		
				生活機能援助論Ⅶ：子どもを産み育てることを支える機能	2後	1			2		3	4	2	
				生活機能援助論Ⅷ：救命救急・診療の補助	2後	1			1	3	2	4	1	
				生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開	2後	1			3	3	4	7	2	
				家族看護論	2後	1			1					兼1
				看護展開基礎論	2前	1			8	1	2	3		
				看護展開基礎実習	2前	2			6	3	4	5	3	
				小計（ 15科目）	―	16	0	0	8	5	4	8	4	兼3
		看護実践能力育成科目	健康増進看護	健康増進看護総論Ⅰ：地域保健	1後	1				3				
				健康増進看護総論Ⅱ：成育保健	1後	1			2		1			
				健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	1後	1			1	1				
				健康増進看護総論Ⅳ：精神保健	1後	1				1				
				健康増進ケア論Ⅰ：地域保健看護活動の基礎	2前	1			1				1	
				健康増進ケア論Ⅱ：対象の発達段階に応じた地域看護活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論Ⅲ：健康課題の特性に応じた地域看護活動	2後	1			1	2			1	
				健康増進ケア論Ⅳ：学校・産業保健活動	2後	1				2			1	
				健康増進ケア論実習	3前後	3			1	2			1	
				小計（ 9科目）	―	11	0	0	4	5	1	0	1	0
			健康回復看護	健康回復看護総論	2前	1				2				兼1
				健康回復過程論Ⅰ：急性-回復期・治療過程における看護	2前	1			1	2		3	2	
				健康回復過程論Ⅱ：リハビリ期・慢性期の看護	2前	1			2	1	1	3	1	
				健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	2後	1			1	2		3	2	
				成育健康回復ケア概論	2前	1			2		1			
				成人老年健康回復ケア概論	2前	1			2					
				精神・在宅健康回復ケア概論	2前	1			2					
				成育健康回復ケア論Ⅰ	2前	1			2		1	1		
				成育健康回復ケア論Ⅱ	2後	1			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論	2後	1			1	2		4	1	
				老年健康回復ケア論	2後	1			1		1	5	1	
				精神健康回復ケア論	2後	1			1	1		4	2	
				在宅健康回復ケア論	2後	1			1	1	1	2	3	
				健康回復看護総論実習	2前	1			7	1	2	2		

				成育健康回復ケア論実習Ⅰ	3前後	3			2		1	1	2	
				成育健康回復ケア論実習Ⅱ	3前後	3			2		1	1	2	
				成人健康回復ケア論実習	3前後	3			1	2		1		
				老年健康回復ケア論実習	3前後	3			1		1	1	1	
				精神健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				在宅健康回復ケア論実習	3前後	3			1	1		2		
				小計（ 20科目）	―	32	0	0	7	4	4	8	4	兼1
		統合科目	長期療養生活看護	長期療養生活看護総論	3後	1				1				
				長期療養生活ケア論	4前	1				2		3		
				長期療養生活ケア論実習	4前	2			1	1	2	3		
				小計（ 3科目）	―	4	0	0	1	2	2	5	0	0
			発展	健康増進ケア論発展実習	4前	2			1	2			1	
				看護管理論	4前	1			1					
				看護統合演習	4後	1			8	1	1			
			学部横断科目	地域包括チームケア論	3後	1			1	3	1	3		
				災害支援論	3後	1			2	3	1	2		兼2
				小計（ 5科目）	―	6	0	0	8	6	3	5	1	兼2

科目区分			主要概念	授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	兼任・兼担
看護学科専門教育科目	専門科目	看護探究科目 探究	看護	暮らし探索フィールドワーク	1後	1			1	4	2	7	2	
				看護研究	2後	1			1		2			
				卒業研究Ⅰ	4前	1			8	6	3			
				卒業研究Ⅱ	4後	1			8	6	3			
				看護キャリア発達論	4後	1			3					
				小計（ 5科目）	―	5	0	0	8	6	4	7	2	0
合計（ 160科目）					―	113	128	0	8	6	4	8	4	兼101

卒業要件及び履修方法

「共通教育科目」で必修10単位，選択8単位以上，「専門基礎科目」で必修24単位，選択必修8単位以上，「専門科目」で必修79単位以上を修得し，合計129単位以上を修得すること。
履修科目の登録上限は48単位（年間）とする。

（注）・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第２号（その２の１）に準じて作成してください。
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て（兼任、兼担教員が担当する科目を含む。）を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字**としてください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「（未開講）」として記入してください。
・ １ページ目には認可時又は届出時と報告年度２つの表を記入してください。
・ 不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。
（２つの表が１ページに表示されるようにしてください。）
・ 専門職大学等の場合、「実験、実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「臨地実務実習」による授業科目には「【臨】」、「連携実務演習」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に（新）又は（旧）と追記してください。
（例：記載順）【認可時又は届出時】→【令和６年度】(新)→【令和５年度】(新)→【令和４年度】→【令和３年度】→【令和６年度】(旧)→【令和５年度】(旧

（１）ー②授業科目表に関する変更内容

【令和５年度】

1.教授の就任が１年遅れたことに伴い、１年次配当科目の「看護への招待」の「専任教員等の配置」を「教授７」から「教授６」に「准教授０」から「准教授１」に変更（令和５年３月（第１回）教員審査中）。
2.担当者の事情により、「確率と統計」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。
3.兼担教員の見直しにより、「コミュニケーション力育成」の「兼任・兼担」を「兼２」から「兼１」に変更。
4.上記3の変更に伴い、基礎科目の小計の「兼任・兼担」を「兼６」から「兼５」に変更。
5.担当者の事情により、「日本文学」の配当年次を「1前後」から「1後」に変更。加えて、「兼任・兼担」を「兼２」から「兼１」に変更。
6.教育効果を高めるために、「音楽文化論」の「兼任・兼担」を「兼３」から「兼６」に変更。
7.担当者の事情により、「日本史」の「兼任・兼担」を「兼２」から「兼１」に変更。
8.本学の新規採用に伴い、「心理学」の「兼任・兼担」を「兼３」から「兼４」に変更。
9.上記の5～8の変更に伴い、、人文科学の小計の「兼任・兼担」を「兼16」から「兼18」に変更。
10.兼担教員の退職により、「海外インターンシップ」の「兼任・兼担」を「兼４」から「兼３」に変更。
11.担当者の事情により、「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」の「兼任・兼担」を「兼６」から「兼５」に変更。
12.担当者の事情により、「英語リーディング」の配当年次を「1前後」から「1前」に変更。加えて、「兼任・兼担」を「兼４」から「兼３」に変更。
13.担当者の事情により、「英語ライティング」の配当年次を「1後」から「1前後」に変更。加えて、「兼任・兼担」を「兼３」から「兼４」に変更。
14.兼担教員の退職等により、「Global Economy and Business」の「兼任・兼担」を「兼９」から「兼７」に変更。
15.上記の11～13の変更に伴い、、英語の小計の「兼任・兼担」を「兼16」から「兼17」に変更。
16.兼担教員の退職により、「韓国語海外研修」（未開講）の「兼任・兼担」を「兼1」から空欄に変更。
17.上記の15に伴い、、第二外国語の小計の「兼任・兼担」を「兼６」から「兼５」に変更。
18.担当者の事情により、「スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）」の配当年次を「1前後」から「1前」に変更。
19.担当者の事情により、「スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）」の「兼任・兼担」を「兼３」から「兼２」に変更。
20.担当者の事情により、「スポーツ実習Ⅲ（個人種目）」の「兼任・兼担」を「兼２」から「兼３」に変更。
21.兼担教員の退職により、「スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）」（未開講）の「兼任・兼担」を「兼1」から空欄に変更。
22.担当者の事情により、「社会心理学」の配当年次を「1後」から「1前」に変更。

【令和6年度】

1.教育効果を高めるために、「論理的思考と数的処理」の配当年次を「2後」から「2前後」に変更。
2.担当者の事情により、「社会学」の「配当年次」を「1後」から「１前」に変更。
3.担当者の事情により、「海外インターンシップ」の「兼任・兼担」を「兼3」から「兼2」に変更。
4.教育効果を高めるために、「教養特講Ⅲ」の「兼任・兼担」を「兼1」から「兼2」に変更。
5.上記3・4の変更に伴い、地域志向欄の小計「兼任・兼担」を「兼15」から「兼12」に変更。
6.担当者の事情により、「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」の「兼任・兼担」を「兼5」から「兼6」に変更。
7.担当者の事情により、「英語リーディング」の配当年次を「1前後」から「1前」に変更。
8.担当者の事情により、「英語ライティング」の配当年次を「1後」から「1前後」に変更。
9.担当者の事情により、「基礎韓国語Ⅱ」の「兼任・兼担」を「兼2」から「兼1」に変更。
10.令和5年度に審査中であった１年次配当科目の「看護への招待」の専任教員の判定が可となったことに伴い，看護導入科目小計欄の「教授8」から「教授7」に変更。
11.着任予定教員の死去に伴い、2年次配当科目の「生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開」の「教授」を「3」から「2」へ，准教授を「3」から「4」へ変更。令和５年11月AC教員審査済み。
12.着任予定教員の死去に伴い、2年次配当科目の「看護展開基礎論」の「教授」を「8」から「7」へ，准教授を「1」から「2」へ変更。（令和５年11月AC教員審査可）
13.着任予定教員の死去に伴い、2年次配当科目の「看護展開基礎実習」の「教授」を「6」から「5」へ，助教を「5」から「6」へ変更。（令和５年11月AC教員審査可）
14.上記10～12の変更に伴い、看護実践コア科目の小計「教授」を「8」から「7」へ，変更。
15.着任予定教員の死去に伴い、2年次配当科目の「健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護」の「教授」を「1」から「0」へ，准教授を「2」から「3」へ変更。（令和５年11月AC教員審査可）
16.教育効果を高めるために、「成人老年健康回復ケア概論」の「兼任・兼担」を「兼1」追加。
17.教育効果を高めるために、「老年健康回復ケア論」の「兼任・兼担」を「兼1」追加。
18.上記16～17の変更に伴い、看護実践コア科目の小計「兼任・兼担」を「兼1」から「兼2」へ，変更。
19.着任予定教員の死去に伴い、2年次配当科目の「健康回復看護総論実習」の「教授」を「7」から「6」へ，准教授を「1」から「2」へ変更。令和５年11月AC教員審査済み。
20.上記11～13の変更に伴い、看護実践コア科目の小計「教授」を「7」から「6」へ，変更。

（注）・　２（１）ー① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、
授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
・　不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。
・　指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ１つの枠内に記入してください。

（２） 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計（Ａ）	必修	選択	自由	計	
89 科目	71 科目	0 科目	160 科目	89 科目 [0]	71 科目 [0]	0 科目 [0]	160 科目 [0]	

（注）・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、［ ］内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：１科目減の場合：△１）

・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

（3） 未開講科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	かごしま教養プログラム	2	1	一般	選択	担当者の事情により、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。
2	教養特講Ⅰ	2	1	一般	選択	担当者退職のため、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。
3	教養特講Ⅱ	2	1	一般	選択	担当者退職のため、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。
4	英語海外研修	2	1	一般	選択	担当者の事情により、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。
5	韓国語海外研修	2	1	一般	選択	担当者の事情により、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。
6	スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技）	1	1	一般	選択	担当者が退職の為、未開講。選択科目の為、学生の履修に支障なし。

（注）・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

（4） 廃止科目

番号	授業科目名	単 位 数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						「該当なし」
2						
3						

（注）・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎、展開、職業専門、総合」と修正して記入してください。
・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

（5） 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

未開講科目については学生に不利益はなく、問題ないと判断した。学生に対しては、年度初めのオリエンテーション等で周知した。

（注）・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

（６）「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{6}{160} = \boxed{3.75}\ \%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
　　・　「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

３　施設・設備の整備状況，経費

区分		内容				備考
(1) 校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	【伊敷キャンパス】 定期建物賃貸借契約 借用面積 9,177㎡ 借用建物の建築面積合計 建築面積 3,652㎡ 借用期間 21年間 事業用定期借地権設定契約公正証書 土地借用面積 867㎡ 借用期間 22年2カ月間
	校舎敷地	80,791 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	80,791 ㎡	
	運動場用地	117,092 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	117,092 ㎡	
	小計	197,883 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	197,883 ㎡	
	その他	343 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	343 ㎡	
	合計	198,226 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	198,226 ㎡	
(2) 校舎		専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	【伊敷キャンパス】 校舎 6,522㎡ 令和５年度の１年のみ鹿児島医療センター附属鹿児島看護学校の学生と校舎を共用
		45,594 ㎡ （ 41,463 ㎡）	0 ㎡ （ 3,262 ㎡）	0 ㎡ （ 869 ㎡）	45,594 ㎡ （ 45,594 ㎡）	

(3) 教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	備考
	39 室	32 室	80 室	4 室 （補助職員 0 人）	0 室 （補助職員 0 人）	【伊敷キャンパス】 講義室4室，演習室17室 実験実習室6室

(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	備考
	看護学部　看護学科	22（共同研究室１室含む）　室	

(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	備考
	看護学部	14,037〔899〕 ~~13,935〔897〕~~ ~~13,884〔879〕~~ (13,380〔839〕)	48〔1〕 ~~49〔 1 〕~~ ~~43〔 1 〕~~ (48〔1〕)	1〔 1 〕 （ 1 〔 1 〕）	114 ~~106~~ ~~98~~ （ 99 ）	5,317 （ 4,038 ）	0 （ 0 ）	大学全体で共用 【坂之上キャンパス】 648,184 ~~624,436~~ 図書 ~~653,253~~冊 131,885 ~~125,197~~ 〔うち外国書〕~~133,623~~冊 地域総合研究所蔵書追加による増(6) 学術雑誌8,924種 〔うち外国書〕1,027種 電子ジャーナル 1 〔うち外国書〕1 視聴覚資料 37,954 ~~37,858~~点 機械・器具 8,706点 標本 0点 ※電子ジャーナルは1種40誌相当のパッケージサービス 図書は入手不可タイトル振替に伴う所蔵数の増。雑誌は休刊等による種数変更。視聴覚資料は個別登録に伴う点数変更。(6)
	計	14,037〔899〕 ~~13,935〔897〕~~ ~~13,884〔879〕~~ (13,380〔839〕)	48〔1〕 ~~49〔 1 〕~~ ~~43〔 1 〕~~ (48〔1〕)	1〔 1 〕 （ 1 〔 1 〕）	114 ~~106~~ ~~98~~ （ 99 ）	5,317 （ 4,038 ）	0 （ 0 ）	

(6) 図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	備考
	8,309 ㎡	532 ~~549~~	697千冊	【伊敷キャンパス】 面積 408㎡ 閲覧座席数 5749席 収納可能冊数 27千冊 館内レイアウト変更等に伴う座席数の変更（5）

(7) 体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	備考
	11,068 ㎡	野球場，テニスコート，弓道場，洋弓場，柔道場，剣道場，空手道場，少林寺拳法練習場，ボクシング練習室，卓球練習室，多目的練習	【伊敷キャンパス】 屋内運動場 面積 652㎡

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	備考
経費の見積り	教員１人当り研究費等	350千円	350千円	図書購入費	18,570 千円	11,115 ~~10,785~~ 千円	8,195 千円	図書費には電子ジャーナル・データベースの整備費（運用コスト含む）を含む
	共同研究費等	1,000千円	1,000千円	設備購入費	185,165 千円 ~~183,644 千円~~	94,243 ~~千円~~ ~~87,815 千~~	0 千円	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,760千円	1,510千円	1,510千円	1,510千円	― 千円	― 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金他，学園全体の資産運用収入及び事業収入を充当する

（注）・　設置時の計画を、申請書の様式第２号（その１の１）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合複数の様式に分ける必要はありません。なお、「（１）校地等」及び「（２）校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はＡＣ対象学部等の数値を記入してください。）

・　運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。

・　「(５)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の５月１日現在の数値を記入してください

・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「（６）」を「備考」に赤字で記入してください。

なお、昨年度の報告において赤字で見え消しした部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

・　校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。

・　国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

４　既設大学等の状況

大学の名称	鹿児島国際大学										収容定員充足率0.7倍以下の学科数	1	収容定員充足率1.15倍以上の学科数	0
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率（控除後）	定員変更年度（AC期間の学科のみ）	開設年度	所在地	備考			
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度					
経済学部	4	320	0	1400	－	0.97	－	－	昭和35	－				
経済学科	4	170	0	740	学士（経済学）	0.85	－	－	昭和35	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号	令和５年度から入学定員変更（200→170）			
経営学科	4	150	0	660	学士（経営学）	1.12	1.09	－	昭和40	同上	令和５年度から入学定員変更（180→150）			
福祉社会学部	4	210	0	860	－	0.97	－	－	昭和57	－				
社会福祉学科	4	90	0	380	学士（社会福祉学）	0.86	－	－	昭和57	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号	令和５年度から入学定員変更（100→90）			
児童学科	4	120	0	480	学士（児童学）	1.06	1.06	－	平成13	同上				
国際文化学部	4	145	0	600	－	0.86	－	－	平成12	－				
国際文化学科	4	115	0	470	学士（国際文化学）	0.97	－	－	平成24	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号	令和５年度から入学定員変更（120→115）			
音楽学科	4	30	0	130	学士（音楽）	**0.46**	－	－	平成22	同上	令和５年度から入学定員変更（35→30）			
看護学部	4	80	0	160	－	0.95	－	－	令和5	－				
看護学科	4	80	0	160	学士（看護学）	0.95	－	－	令和5	鹿児島県鹿児島市坂之上八丁目34番1号 鹿児島県鹿児島市下伊敷一丁目52番17号				
大学全体	4	755	0	3020	－	0.95	－	－	－	－				

（注）・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校（以下「大学等」という。）について、既に設置している学部等（短期大学、高等専門学校にあっては学科等）の報告年度の５月１日現在の状況を記入してください。（大学院、専攻科及び別科を除く）。
なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「－」とした上で、「非表示」設定としてください。
・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度ＡＣの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「収容定員充足率」には、報告年度における５月１日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における５月１日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください
算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和７年度開設用）Ⅳ.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
・「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第１条第２項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第２項及び第４項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を越える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「－」としてください。
・「収容定員充足率（控除後含む）」は、小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで記入してください。
また、0.7倍以下又は1.15倍以上の**学科**については、**必ず太字にしてください**。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

5　教員組織の状況

＜看護学部　看護学科＞

（１）ー① 担当教員表

【認可時又は届出時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堤　由美子 (68 高) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 看護への招待 援助関係論 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 精神・在宅健康回復ケア概論※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	中 馬 成 子 (63 高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	看護への招待 看護学概論※ 看護倫理※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 災害支援論※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	米 増 直 美 (Acdan Naomi Yonemasu) (56) ＜令和６年４月＞ 博士（看護学）	保健医療福祉行政論 健康と看護 看護展開基礎論 健康増進ケア論Ⅰ ：地域保健看護活動の基礎 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 看護管理論※ 看護統合演習※ 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	鳥　越　郁　代 (63 高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	佐々木(新庄)くみ子 (56) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 家族看護論※ 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

【令和５年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堤　由美子 (68 高) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 看護への招待 援助関係論 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 精神・在宅健康回復ケア概論※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	中 馬 成 子 (63 高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	看護への招待 看護学概論※ 看護倫理※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 災害支援論※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	米 増 直 美 (Acdan Naomi Yonemasu) (56) ＜令和６年４月＞ 博士（看護学）	保健医療福祉行政論 健康と看護 看護展開基礎論 健康増進ケア論Ⅰ ：地域保健看護活動の基礎 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 看護管理論※ 看護統合演習※ 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	鳥　越　郁　代 (63 高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	佐々木(新庄)くみ子 (56) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 家族看護論※ 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

【令和６年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	堤　由美子 (69 高) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 看護への招待 援助関係論 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 精神・在宅健康回復ケア概論※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	中 馬 成 子 (64高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	看護への招待 看護学概論※ 看護倫理※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 災害支援論※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	米 増 直 美 (Acdan Naomi Yonemasu) (56) ＜令和６年４月＞ 博士（看護学）	保健医療福祉行政論 健康と看護 看護展開基礎論 健康増進ケア論Ⅰ ：地域保健看護活動の基礎 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 看護管理論※ 看護統合演習※ 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	鳥　越　郁　代 (64 高) ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ 看護キャリア発達論※
専	教授	佐々木(新庄)くみ子 (57) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 家族看護論※ 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ ：成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 健康回復看護総論実習 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	山 田　巧 （58） ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人老年健康回復ケア概論※ 成人健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 成人健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	河　口　朝　子 （65 高） ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	人間と看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅲ ：成人老年保健※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人老年健康回復ケア概論※ 老年健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 老年健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	丹　羽　さよ子 （66 高） ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 精神・在宅健康回復ケア概論※ 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	塩　満　智　子 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	暮らしと看護 健康と看護 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	稲　留　直　子 （44） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 保健医療福祉行政論 健康と看護 看護学概論※ 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	山 田　巧 （58） ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人老年健康回復ケア概論※ 成人健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 成人健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	河　口　朝　子 **（66 高）** **＜令和６年４月＞** 博士（看護学）	人間と看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅲ ：成人老年保健※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人老年健康回復ケア概論※ 老年健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 老年健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	丹　羽　さよ子 （66 高） ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 **健康増進看護総論Ⅲ** **：成人老年保健** 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 精神・在宅健康回復ケア概論※ 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ **暮らし探索フィールドワーク** 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	塩　満　智　子 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	暮らしと看護 健康と看護 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	稲　留　直　子 （44） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 保健医療福祉行政論 健康と看護 看護学概論※ 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	教授	山 田　巧 **（59）** ＜令和５年４月＞ 博士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 **人間と看護** 看護への招待 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人老年健康回復ケア概論※ 成人健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 成人健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	教授	丹　羽　さよ子 **（67 高）** ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 看護への招待 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 **健康増進看護総論Ⅲ** **：成人老年保健** 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ **成人老年健康回復ケア概論** 精神・在宅健康回復ケア概論※ **老年健康回復ケア論** 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ **暮らし探索フィールドワーク** 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	塩　満　智　子 **（44）** ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	暮らしと看護 健康と看護 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	稲　留　直　子 **（45）** ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 保健医療福祉行政論 健康と看護 看護学概論※ 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康増進ケア論Ⅱ ：対象の発達段階に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅲ ：健康課題の特性に応じた地域看護活動※ 健康増進ケア論Ⅳ ：学校・産業保健活動※ 健康増進ケア論実習 健康増進ケア論発展実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	中　俣　直　美 （60） ＜令和５年４月＞ 修士（社会学）	新入生ゼミナール※ 健康と看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活看護総論 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	武　　亜希子 （46） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅲ ：成人老年保健※ 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	安　藤　光　子 （60） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅳ ：精神保健 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	中　俣　直　美 （60） ＜令和５年４月＞ 修士（社会学）	新入生ゼミナール※ 健康と看護 **看護への招待** 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活看護総論 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	武　　亜希子 （46） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅲ ：成人老年保健※ 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	安　藤　光　子 （60） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅳ ：精神保健 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	中　俣　直　美 （**61**） ＜令和５年４月＞ 修士（社会学）	新入生ゼミナール※ 健康と看護 **看護への招待** 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 **看護展開基礎論** 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活看護総論 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 地域包括チームケア論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	武　　亜希子 （**47**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ **生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開** 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅲ ：成人老年保健※ 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 災害支援論※ 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	准教授	安　藤　光　子 （**61**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅳ ：精神保健 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	小　玉　博　子 （55） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 在宅健康回復ケア論※ 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	有　村　優　子 （65 高） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	西　頭　知　子 （52） ＜令和５年４月＞ 修士（保健学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ :成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	一　宮　絵　美 （49） ＜令和５年４月＞ 修士（人間科学）	生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	小　玉　博　子 （55） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 在宅健康回復ケア論※ 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	有　村　優　子 （65 高） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	西　頭　知　子 （53） ＜令和５年４月＞ 修士（保健学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ :成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	一　宮　絵　美 （49） ＜令和５年４月＞ 修士（人間科学）	生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	准教授	小　玉　博　子 （56） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康増進看護総論Ⅰ ：地域保健※ 健康回復看護総論※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ **健康回復過程論Ⅱ：人生の最期のとき・外来通院期の看護** 在宅健康回復ケア論※ **健康回復看護論論実習** 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	有　村　優　子 （66 高） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護統合演習※ 看護研究 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	西　頭　知　子 （54） ＜令和５年４月＞ 修士（保健学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康増進看護総論Ⅱ :成育保健※ 成育健康回復ケア概論※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	講師	一　宮　絵　美 （50） ＜令和５年４月＞ 修士（人間科学）	生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習 看護研究

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	野　中　弘　美 （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	助教	石　川　志　保 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習
専	助教	久富木　有　加 （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	梅　木　由　紀 （45） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 人間と看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	野　中　弘　美 （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	助教	石　川　志　保 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習
専	助教	久富木　有　加 （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	梅　木　由　紀 （45） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 人間と看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	講師	野　中　弘　美 （39） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ **成人老年健康回復ケア概論** 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク 卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ
専	助教	石　川　志　保 （44） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 精神健康回復ケア論 健康回復看護総論実習 長期療養生活ケア論実習
専	助教	久富木　有　加 （39） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 健康回復看護総論実習 在宅健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	梅　木　由　紀 （46） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ いのちと看護 人間と看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 成育健康回復ケア論Ⅰ※ 成育健康回復ケア論Ⅱ※ 成育健康回復ケア論実習Ⅰ 成育健康回復ケア論実習Ⅱ 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	持　留　里　奈 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	小　原　めぐみ （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	人間と看護 健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 老年健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	春　田　陽　子 （40） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	平　松　明　子 （36） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	水　迫　友　和 （41） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	持　留　里　奈 （43） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	小　原　めぐみ （38） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	人間と看護 健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 老年健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	春　田　陽　子 （40） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	平　松　明　子 （36） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	水　迫　友　和 （41） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
専	助教	持　留　里　奈 （**44**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅶ ：子どもを産み育てることを支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅰ ：急性-回復期・治療過程における看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 成人健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	小　原　めぐみ （**39**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	人間と看護 健康と看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅰ ：安全をまもる機能 生活機能援助論Ⅱ ：生きるを支える機能 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 老年健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 長期療養生活ケア論実習 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	春　田　陽　子 （**41**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 老年健康回復ケア論 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 長期療養生活ケア論 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	平　松　明　子 （**37**） ＜令和５年４月＞ 修士（看護学）	新入生ゼミナール※ 暮らしと看護 援助関係論 生活機能援助論Ⅳ ：排便・排尿を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 看護展開基礎論 看護展開基礎実習 健康回復過程論Ⅲ ：人生の最期のとき・外来通院期の看護※ 成人健康回復ケア論※ 精神健康回復ケア論 精神健康回復ケア論実習 災害支援論※ 暮らし探索フィールドワーク
専	助教	水　迫　友　和 （**42**） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	新入生ゼミナール※ 人間と看護 暮らしと看護 生活機能援助論Ⅲ ：食物・水分摂取を支える機能 生活機能援助論Ⅴ ：動くを支える機能 生活機能援助論Ⅵ ：休むと情報交換を支える機能 生活機能援助論Ⅷ ：救命救急・診療の補助※ 生活機能援助論Ⅸ ：在宅展開・事例展開 **看護展開基礎実習** 健康回復過程論Ⅱ ：リハビリ期・慢性期の看護※ 老年健康回復ケア論 在宅健康回復ケア論※ 在宅健康回復ケア論実習 地域包括チームケア論※ 暮らし探索フィールドワーク

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	学長	大久保　幸　夫 （69） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	データサイエンス・AI入門 地域から世界へ
兼担	教授	山　本　晃　正 （69） ＜令和５年４月＞ 法学修士※	日本国憲法
兼担	教授	森　　勝　彦 （69） ＜令和５年４月＞ 国際学修士※	地理学
兼担	教授	里　園　清　孝 （68） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	コミュニケーション力育成
兼担	教授	高　橋　信　行 （68） ＜令和５年４月＞ 文学修士	教養特講Ⅲ
兼担	教授	八　木　　正 （68） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	地域経済論 環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ
兼担	教授	森　孝　晴 （68） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化学）	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	KAMCHAI LAISMIT （67） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学
兼担	教授	西原 誠司 （67） ＜令和５年４月＞ 経済学博士	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	岡村　重信 （66） ＜令和５年４月＞ Master of Music(米国)	音楽文化論※
兼担	教授	DAVID MCMURRAY （66） ＜令和５年４月＞ M.B.A. Master of Business Administration(カナダ)	Japanology※ 海外インターンシップ 英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ Global Economy and Business※
兼担	教授	加藤　一弘 （66） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学 Global Economy and Business※
兼担	教授	有松 しづよ （66） ＜令和５年４月＞ 国際学修士 教育学修士※	キャリア形成のための一般教養Ⅰ キャリア形成のための一般教養Ⅱ キャリア形成のための一般教養Ⅲ キャリア形成のための一般教養Ⅳ 論理的思考と数的処理 キャリア形成のための文章力育成 教養特講Ⅰ
兼担	教授	日野　一成 （65） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	法学
兼担	教授	戦　慶勝 （64） ＜令和６年４月＞ 博士(国際文化学)	海外インターンシップ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	**教授**	大久保　幸　夫 （69） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	データサイエンス・AI入門
兼担	教授	山　本　晃　正 （**70**） ＜令和５年４月＞ 法学修士※	日本国憲法
兼担	教授	森　　勝　彦 （69） ＜令和５年４月＞ 国際学修士※	地理学
兼担	教授	長田　新太郎 （68） ＜令和５年４月＞ 芸術学士	音楽文化論※
兼担	教授	高　橋　信　行 （68） ＜令和５年４月＞ 文学修士	教養特講Ⅲ
兼担	教授	八　木　　正 （68） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	地域経済論 環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ
兼担	教授	森　孝　晴 （68） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化学）	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	KAMCHAI LAISMIT （67） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学
兼担	教授	西原 誠司 （67） ＜令和５年４月＞ 経済学博士	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	岡村　重信 （66） ＜令和５年４月＞ Master of Music(米国)	音楽文化論※
兼担	教授	DAVID MCMURRAY （66） ＜令和５年４月＞ M.B.A. Master of Business Administration(カナダ)	Japanology※ 海外インターンシップ
兼担	教授	加藤　一弘 （66） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学 Global Economy and Business※
兼担	教授	有松 しづよ （66） ＜令和５年４月＞ 国際学修士 教育学修士※	キャリア形成のための一般教養Ⅰ キャリア形成のための一般教養Ⅱ キャリア形成のための一般教養Ⅲ キャリア形成のための一般教養Ⅳ 論理的思考と数的処理 キャリア形成のための文章力育成 教養特講Ⅰ
兼担	教授	日野　一成 （65） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	法学
兼担	教授	戦　慶勝 （64） ＜令和６年４月＞ 博士(国際文化学)	海外インターンシップ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	**教授**	大久保　幸　夫 （**70**） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	データサイエンス・AI入門
兼担	教授	山　本　晃　正 （**71**） ＜令和５年４月＞ 法学修士※	日本国憲法
兼担	教授	長田　新太郎 （**69**） ＜令和５年４月＞ 芸術学士	音楽文化論※
兼担	教授	高　橋　信　行 （**69**） ＜令和５年４月＞ 文学修士	教養特講Ⅲ
兼担	教授	八　木　　正 （**69**） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	地域経済論 環境経済論Ⅰ 環境経済論Ⅱ
兼担	教授	森　孝　晴 （**69**） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化学）	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	KAMCHAI LAISMIT （**68**） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学
兼担	教授	西原 誠司 （**68**） ＜令和５年４月＞ 経済学博士	かごしま教養プログラム かごしまフィールドスクール
兼担	教授	岡村　重信 （**67**） ＜令和５年４月＞ Master of Music(米国)	音楽文化論※
兼担	教授	DAVID MCMURRAY （**67**） ＜令和５年４月＞ M.B.A. Master of Business Administration(カナダ)	Japanology※ 海外インターンシップ
兼担	教授	加藤　一弘 （**67**） ＜令和５年４月＞ 経済学修士※	経済学 Global Economy and Business※
兼担	教授	日野　一成 （**66**） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	法学
兼担	教授	戦　慶勝 （64） ＜令和６年４月＞ 博士(国際文化学)	海外インターンシップ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	村瀬　士朗 (64) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	日本文学
兼担	教授	康上　賢淑 (63) ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	教授	JEFFREY SCOTT IRISH (62) ＜令和５年４月＞ Master of Arts Regional Studies - East Asia(米国)	地域創生Ⅰ 地域創生Ⅱ Global Economy and Business※ まちづくり概論
兼担	教授	山下　孝子 (61) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	外国文学 Japanology※ 英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法
兼担	教授	久保　禎 (60) ＜令和５年４月＞ 教育学修士	音楽文化論※
兼担	教授	飯田 伸二 (59) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎フランス語Ⅰ 基礎フランス語Ⅱ
兼担	教授	表　正幸 (59) ＜令和５年４月＞ 英文学修士※	情報処理 英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ Global Economy and Business※ 海外インターンシップ
兼担	教授	中園　聡 (58) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	文化人類学
兼担	教授	小林　潤司 (58) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	Japanology※ ボランティア活動 英語海外研修 英語リーディング コミュニケーションのための英文法
兼担	教授	大西　智和 (57) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	Japanology※
兼担	教授	TOLAND SEAN HENRY (54) ＜令和５年４月＞ Master in Education(カナダ)	Japanology※ 英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	村瀬　士朗 (64) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	日本文学
兼担	教授	康上　賢淑 (63) ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	教授	JEFFREY SCOTT IRISH (62) ＜令和５年４月＞ Master of Arts Regional Studies - East Asia(米国)	地域創生Ⅰ 地域創生Ⅱ Global Economy and Business※ まちづくり概論
兼担	教授	山下　孝子 (61) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	Japanology※ 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法
兼担	教授	久保　禎 (60) ＜令和５年４月＞ 教育学修士	音楽文化論※
兼担	教授	飯田 伸二 (59) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎フランス語Ⅰ 基礎フランス語Ⅱ
兼担	教授	表　正幸 (59) ＜令和５年４月＞ 英文学修士※	情報処理 **英語リーディング** **英語ライティング** Global Economy and Business※ 海外インターンシップ
兼担	教授	中園　聡 (58) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	文化人類学
兼担	**学長**	小林　潤司 (58) ＜令和５年４月＞ 文学修士※	Japanology※ 英語海外研修 コミュニケーションのための英文法 **地域から世界へ**
兼担	教授	大西　智和 (57) ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	Japanology※
兼担	**教授**	**及川　寛繁** **(56)** **＜令和５年４月＞** **芸術学士**	**音楽文化論※**
兼担	教授	TOLAND SEAN HENRY (54) ＜令和５年４月＞ Master in Education(カナダ)	Japanology※
兼担	**教授**	**住田　裕子** **(53)** **＜令和５年４月＞** **教育学博士**	**心理学**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	康上　賢淑 **(64)** ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	教授	JEFFREY SCOTT IRISH **(63)** ＜令和５年４月＞ Master of Arts Regional Studies - East Asia(米国)	地域創生Ⅰ 地域創生Ⅱ Global Economy and Business※ まちづくり概論
兼担	教授	山下　孝子 **(62)** ＜令和５年４月＞ 文学修士※	Japanology※ 英語リーディング 英語ライティング 英文読解の技法
兼担	教授	久保　禎 **(61)** ＜令和５年４月＞ 教育学修士	音楽文化論※
兼担	教授	飯田 伸二 **(60)** ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎フランス語Ⅰ 基礎フランス語Ⅱ
兼担	教授	表　正幸 **(60)** ＜令和５年４月＞ 英文学修士※	情報処理 Global Economy and Business※
兼担	教授	中園　聡 **(59)** ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	文化人類学
兼担	**学長**	小林　潤司 **(59)** ＜令和５年４月＞ 文学修士※	Japanology※ 英語海外研修 **地域から世界へ**
兼担	教授	大西　智和 **(58)** ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	Japanology※
兼担	**教授**	**及川　寛繁** **(57)** **＜令和５年４月＞** **芸術学士**	**音楽文化論※**
兼担	教授	TOLAND SEAN HENRY **(55)** ＜令和５年４月＞ Master in Education(カナダ)	Japanology※
兼担	**教授**	**住田　裕子** **(54)** **＜令和５年４月＞** **教育学博士**	**心理学**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	太田　秀春 （50） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化）	日本史 日本史特論
兼担	教授	伊藤　綾 （46） ＜令和５年４月＞ 哲学博士	音楽文化論※
兼担	教授	林 岳宏 （44） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※ 災害支援論※
兼担	准教授	岩下 雅子 （69） ＜令和５年４月＞ 修士（教育学）	教養特講Ⅱ
兼担	准教授	福田 正彦 （69） ＜令和５年４月＞ 修士（経営学）※	Global Economy and Business※
兼担	准教授	武田 篤志 （48） ＜令和５年４月＞ 博士（文学）	社会学 地域社会論
兼担	准教授	池田 亮一 （47） ＜令和５年４月＞ 博士（応用経済学）	経済学
兼担	准教授	木村 拓 （46） ＜令和５年４月＞ 博士（文学）	韓国語海外研修
兼担	准教授	武藤　那賀子 （37） ＜令和５年４月＞ 博士（日本語日本文学）	日本文学
兼担	准教授	吉本　隆哉 （37） ＜令和５年４月＞ 博士（体育学）	日常生活に生かすスポーツ科学 スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）
兼担	准教授	西 宏樹 （36） ＜令和５年４月＞ 修士（流通科学）※	Global Economy and Business※
兼担	准教授	今村　隼人 （31） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	数学Ⅰ 数学Ⅱ 確率と統計
兼担	講師	大野　陽子 （59） ＜令和５年４月＞ 博士（経営学）	海外インターンシップ Global Economy and Business※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	太田　秀春 （50） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化）	日本史特論
兼担	**教授**	**横　清信** **（50）** **＜令和５年４月＞** **博士（経済学）**	**ボランティア活動**
兼担	教授	伊藤　綾 （46） ＜令和５年４月＞ 哲学博士	音楽文化論※
兼担	教授	林 岳宏 （44） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※ 災害支援論※
兼担	准教授	岩下 雅子 （69） ＜令和５年４月＞ 修士（教育学）	教養特講Ⅱ
兼担	准教授	福田 正彦 （69） ＜令和５年４月＞ 修士（経営学）※	Global Economy and Business※
兼担	**准教授**	**馬原　裕子** **（49）** **＜令和５年４月＞** **修士（音楽）**	**音楽文化論※**
兼担	准教授	武田 篤志 （48） ＜令和５年４月＞ 博士（文学）	社会学 地域社会論
兼担	准教授	池田 亮一 （47） ＜令和５年４月＞ 博士（応用経済学）	経済学
兼担	准教授	吉本　隆哉 （37） ＜令和５年４月＞ 博士（体育学）	日常生活に生かすスポーツ科学 スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） **スポーツ実習Ⅲ（個人種目）**
兼担	准教授	西 宏樹 （36） ＜令和５年４月＞ 修士（流通科学）※	Global Economy and Business※
兼担	准教授	今村　隼人 （31） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	数学Ⅰ 数学Ⅱ 確率と統計

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	教授	太田　秀春 （**51**） ＜令和５年４月＞ 博士（国際文化）	日本史特論
兼担	**教授**	**横　清信** **（51）** **＜令和５年４月＞** **博士（経済学）**	**ボランティア活動**
兼担	教授	伊藤　綾 （**47**） ＜令和５年４月＞ 哲学博士	音楽文化論※
兼担	教授	林 岳宏 （44） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※ 災害支援論※
兼担	**准教授**	**馬原　裕子** **（50）** **＜令和５年４月＞** **修士（音楽）**	**音楽文化論※**
兼担	准教授	武田 篤志 （**49**） ＜令和５年４月＞ 博士（文学）	社会学 地域社会論
兼担	准教授	池田 亮一 （**48**） ＜令和５年４月＞ 博士（応用経済学）	経済学
兼担	**准教授**	**内山　仁** **（41）** **＜令和６年４月＞** **修士（教育学）**	**キャリア形成のための一般教養Ⅰ** **キャリア形成のための一般教養Ⅱ**
兼担	准教授	武藤　那賀子 （**38**） ＜令和５年４月＞ 博士（日本語日本文学）	日本文学
兼担	准教授	吉本　隆哉 （**38**） ＜令和５年４月＞ 博士（体育学）	日常生活に生かすスポーツ科学 スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） **スポーツ実習Ⅲ（個人種目）**
兼担	**教授**	西 宏樹 （**37**） ＜令和５年４月＞ 修士（流通科学）※	Global Economy and Business※
兼担	准教授	今村　隼人 （**32**） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	数学Ⅰ 数学Ⅱ 確率と統計 **Global Economy and Business※**

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	講師	永富　大舗 (38) ＜令和５年４月＞ 修士(障害科学)	心理学
兼担	講師	原口　恵 (36) ＜令和５年４月＞ 修士(心理学)※	心理学
兼担	講師	平出 宜勝 (36) ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	助教	濱中　良 (33) ＜令和５年４月＞ 修士(体育学)	現代社会とスポーツ スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅳ（屋外個人球技） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）
兼任	講師	江口　恵子 (74) ＜令和６年４月＞ 専門学校卒	看護倫理※
兼任	講師	亀山　正樹 (71) ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの仕組みと働きⅡ
兼任	講師	新村　恵子 (69) ＜令和５年４月＞ 観光経営科修士(韓国)	基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ
兼任	講師	蓮井　和久 (69) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	からだの仕組みと働きⅠ
兼任	講師	吉家　清貴 (68) ＜令和５年４月＞ 医学博士	感染と防御
兼任	講師	坂本　育生 (67) ＜令和５年４月＞ 文学修士	英語リーディング 英語ライティング TOEIC・TOEFL対策
兼任	講師	宇都　由美子 (67) ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	医療情報活用論
兼任	講師	中島　均 (65) ＜令和６年４月＞ 学士(医学)	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	田中　康博 (65) ＜令和６年４月＞ 学士(医学)	健康回復看護総論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	講師	永富　大舗 (38) ＜令和５年４月＞ 修士(障害科学)	心理学
兼担	講師	原口　恵 (36) ＜令和５年４月＞ 修士(心理学)※	心理学
兼担	講師	平出 宜勝 (36) ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	**助教**	**加藤　凌 (26) ＜令和５年４月＞ 修職修士(専門職)**	**現代社会とスポーツ スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目）**
兼任	講師	江口　恵子 (74) ＜令和６年４月＞ 専門学校卒	看護倫理※
兼任	講師	亀山　正樹 (71) ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの仕組みと働きⅡ
兼任	講師	新村　恵子 (69) ＜令和５年４月＞ 観光経営科修士(韓国)	基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ
兼任	講師	蓮井　和久 (69) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	からだの仕組みと働きⅠ
兼任	講師	吉家　清貴 (68) ＜令和５年４月＞ 医学博士	感染と防御
兼任	講師	坂本　育生 (67) ＜令和５年４月＞ 文学修士	TOEIC・TOEFL対策
兼任	講師	宇都　由美子 (67) ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	医療情報活用論
兼任	講師	中島　均 (65) ＜令和６年４月＞ 学士(医学)	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	田中　康博 (65) ＜令和６年４月＞ 学士(医学)	健康回復看護総論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼担	講師	永富　大舗 (**39**) ＜令和５年４月＞ 修士(障害科学)	心理学
兼担	講師	原口　恵 (**37**) ＜令和５年４月＞ 修士(心理学)※	心理学
兼担	講師	平出 宜勝 (**37**) ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	Global Economy and Business※
兼担	**助教**	**加藤　凌 (27) ＜令和５年４月＞ 修職修士(専門職)**	**現代社会とスポーツ スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技） スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）**
兼任	講師	江口　恵子 (74) ＜令和６年４月＞ 専門学校卒	看護倫理※
兼任	講師	亀山　正樹 (**72**) ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの仕組みと働きⅡ
兼任	講師	新村　恵子 (**70**) ＜令和５年４月＞ 観光経営科修士(韓国)	基礎韓国語Ⅰ
兼任	講師	蓮井　和久 (**70**) ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	からだの仕組みと働きⅠ
兼任	講師	吉家　清貴 (**69**) ＜令和５年４月＞ 医学博士	感染と防御
兼任	講師	坂本　育生 (**68**) ＜令和５年４月＞ 文学修士	TOEIC・TOEFL対策 **コミュニケーションのための英文法**
兼任	講師	宇都　由美子 (67) ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	医療情報活用論
兼任	講師	田中　康博 (65) ＜令和６年４月＞ 学士(医学)	健康回復看護総論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	平井　一臣 （64） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	政治学
兼任	講師	城ケ崎 倫久 （64） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	大塚　眞紀 （64） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	松崎　勉 （64） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	池元　正美 （63） ＜令和５年４月＞ 理学士	コミュニケーション力育成
兼任	講師	侯　徳興 （62） ＜令和５年４月＞ 農学博士 博士(薬学)	代謝と栄養※
兼任	講師	中崎 満浩 （62） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※
兼任	講師	GORHAM PATRICK JAMES （61） ＜令和５年４月＞ Master of Education(TESOL) TEMPLE UNIVERSITY JAPAN	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	竹岡　健一 （61） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	野元　三治 （61） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常と発生メカニズム
兼任	講師	郡　山　幡　之 （61） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	福　満　博　隆 （60） ＜令和５年４月＞ 教育学修士	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）
兼任	講師	飯干 紀代子 （60） ＜令和６年４月＞ 博士（保健科学）	生涯発達論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	平井　一臣 （65） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	政治学
兼任	講師	城ケ崎 倫久 （64） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	大塚　眞紀 （64） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	松崎　勉 （64） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	池元　正美 （63） ＜令和５年４月＞ 理学士	コミュニケーション力育成
兼任	講師	侯　徳興 （63） ＜令和５年４月＞ 農学博士 博士(薬学)	代謝と栄養※
兼任	講師	中崎 満浩 （62） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※
兼任	講師	GORHAM PATRICK JAMES （61） ＜令和５年４月＞ Master of Education(TESOL) TEMPLE UNIVERSITY JAPAN	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	竹岡　健一 （61） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	野元　三治 （61） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常と発生メカニズム
兼任	講師	郡　山　幡　之 （61） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	福　満　博　隆 （60） ＜令和５年４月＞ 教育学修士	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）
兼任	講師	飯干 紀代子 （60） ＜令和６年４月＞ 博士（保健科学）	生涯発達論

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	平井　一臣 （66） ＜令和５年４月＞ 博士(法学)	政治学
兼任	講師	迫田　孝志 （66） ＜令和6年４月＞ 修士（教育学）	教育方法学
兼任	講師	城ケ崎 倫久 （65） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	大塚　眞紀 （64） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	松崎　勉 （64） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	池元　正美 （64） ＜令和５年４月＞ 理学士	コミュニケーション力育成 キャリア形成のための文章力育成
兼任	講師	侯　徳興 （64） ＜令和５年４月＞ 農学博士 博士(薬学)	代謝と栄養※
兼任	講師	冨田　正浩 （63） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	中崎 満浩 （62） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅳ※
兼任	講師	GORHAM PATRICK JAMES （62） ＜令和５年４月＞ Master of Education(TESOL) TEMPLE UNIVERSITY JAPAN	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	新福　豊実 （62） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ 英語リーディング 英語ライティング
兼任	講師	竹岡　健一 （62） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	基礎ドイツ語Ⅰ 基礎ドイツ語Ⅱ
兼任	講師	野元　三治 （62） ＜令和５年４月＞ 医学博士	からだの異常と発生メカニズム
兼任	講師	郡　山　幡　之 （61） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	福　満　博　隆 （61） ＜令和５年４月＞ 教育学修士	スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技） スポーツ実習Ⅲ（個人種目） スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）
兼任	講師	末満　一二三 （61） ＜令和6年４月＞ 学士（農学）	論理的思考と数的処理

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	堀内　正久 （60） ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	働く人の健康
兼任	講師	田中　裕治 （60） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	講師	東元　一晃 （59） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	平　瑞樹 （58） ＜令和５年４月＞ 博士(農学)	地球で生きるいのち
兼任	講師	栗林　文夫 （58） ＜令和５年４月＞ 文学修士	日本史
兼任	講師	井手上　淳一 （58） ＜令和５年４月＞ 学士（医学）	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	山形　真一 （57） ＜令和６年４月＞ 修士(薬学)	薬理学
兼任	講師	松岡　秀樹 （57） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	郡山　千早 （57） ＜令和６年４月＞ Master of Public Health(米国) 博士(医学)	疫学
兼任	講師	鄭　美淑 （55） ＜令和５年４月＞ 学士児童心理学科(韓国)	基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ
兼任	講師	松下　茂人 （55） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	内山　美香 （54） ＜令和７年４月＞ 専門学校卒	災害支援論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	堀内　正久 （60） ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	働く人の健康
兼任	講師	田中　裕治 （60） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	講師	東元　一晃 （59） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	平　瑞樹 （58） ＜令和５年４月＞ 博士(農学)	地球で生きるいのち
兼任	講師	栗林　文夫 （58） ＜令和５年４月＞ 文学修士	日本史
兼任	講師	井手上　淳一 （58） ＜令和５年４月＞ 学士（医学）	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	丹羽　佐紀 （58） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	外国文学
兼任	講師	山形　真一 （57） ＜令和６年４月＞ 修士(薬学)	薬理学
兼任	講師	松岡　秀樹 （57） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	郡山　千早 （57） ＜令和６年４月＞ Master of Public Health(米国) 博士(医学)	疫学
兼任	講師	鄭　美淑 （55） ＜令和５年４月＞ 学士児童心理学科(韓国)	基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ
兼任	講師	松下　茂人 （55） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	蒲地　賢一郎 （55） ＜令和５年４月＞ 英語学修士	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	内山　美香 （54） ＜令和７年４月＞ 専門学校卒	災害支援論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	堀内　正久 （61） ＜令和５年４月＞ 博士（医学）	働く人の健康
兼任	講師	田中　裕治 （60） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	講師	東元　一晃 （59） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	水主　いづみ （59） ＜令和６年４月＞ 学士（社会学）※	成人老年健康回復ケア概論※ 老年健康回復ケア論※
兼任	講師	平　瑞樹 （59） ＜令和５年４月＞ 博士(農学)	地球で生きるいのち
兼任	講師	栗林　文夫 （59） ＜令和５年４月＞ 文学修士	日本史
兼任	講師	井手上　淳一 （59） ＜令和５年４月＞ 学士（医学）	からだの異常の診断技術※
兼任	講師	丹羽　佐紀 （59） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	外国文学
兼任	講師	山形　真一 （57） ＜令和６年４月＞ 修士(薬学)	薬理学
兼任	講師	松岡　秀樹 （57） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	郡山　千早 （57） ＜令和６年４月＞ Master of Public Health(米国) 博士(医学)	疫学
兼任	講師	鄭　美淑 （56） ＜令和５年４月＞ 学士児童心理学科(韓国)	基礎韓国語Ⅰ 基礎韓国語Ⅱ
兼任	講師	岩船　昌起 （56） ＜令和6年４月＞ 博士（理学）	地理学
兼任	講師	松下　茂人 （55） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	河野　哲志 （55） ＜令和６年４月＞ 学士（医学）	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	講師	蒲地　賢一郎 （56） ＜令和５年４月＞ 英語学修士	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	内山　美香 （54） ＜令和７年４月＞ 専門学校卒	災害支援論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大和　多加子 （53） ＜令和５年４月＞ 文学修士	英語リーディング 英語ライティング
兼任	講師	森内　昭博 （53） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	河原　康一 （52） ＜令和５年４月＞ 博士(理学)	生命科学 環境科学
兼任	講師	藤内　哲也 （52） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	西洋史
兼任	講師	新永　浩子 （52） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	いのちをはぐぐむ地球
兼任	講師	川畑 英之 （52） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	恒松　良祐 （52） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	講師	岩重　正一 （51） ＜令和５年４月＞ 博士(社会福祉学)	心理学
兼任	講師	鶴　真一 （50） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	哲学
兼任	講師	三木　夏華 （49） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ
兼任	講師	崎向　幸江 （49） ＜令和５年４月＞ 短大2卒	代謝と栄養※
兼任	講師	上山　敬補 （48） ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	倫理学
兼任	講師	松本　宏明 （47） ＜令和６年４月＞ 博士（教育学）	家族看護論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大和　多加子 （53） ＜令和５年４月＞ 文学修士	英語リーディング 英語ライティング
兼任	講師	森内　昭博 （53） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	河原　康一 （52） ＜令和５年４月＞ 博士(理学)	生命科学 環境科学
兼任	講師	藤内　哲也 （52） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	西洋史
兼任	講師	新永　浩子 （52） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	いのちをはぐぐむ地球
兼任	講師	川畑 英之 （52） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	恒松　良祐 （52） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅲ※
兼任	**講師**	**神薗　紀幸 （52） ＜令和５年４月＞ 修士（学術）**	**社会心理学**
兼任	講師	岩重　正一 （51） ＜令和５年４月＞ 博士(社会福祉学)	心理学
兼任	**講師**	**上村　真之 （51） ＜令和５年４月＞ Master of Fine Arts**	**英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ 英語ライティング**
兼任	講師	鶴　真一 （50） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	哲学
兼任	講師	三木　夏華 （49） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ
兼任	講師	崎向　幸江 （49） ＜令和５年４月＞ 短大2卒	代謝と栄養※
兼任	講師	上山　敬補 （48） ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	倫理学
兼任	講師	松本　宏明 （47） ＜令和６年４月＞ 博士（教育学）	家族看護論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	大和　多加子 （54） ＜令和５年４月＞ 文学修士	英語リーディング 英語ライティング
兼任	講師	森内　昭博 （54） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅰ※
兼任	講師	河原　康一 （53） ＜令和５年４月＞ 博士(理学)	生命科学 環境科学
兼任	講師	藤内　哲也 （53） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	西洋史
兼任	講師	新永　浩子 （53） ＜令和５年４月＞ 博士（理学）	いのちをはぐぐむ地球
兼任	講師	川畑 英之 （52） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	**講師**	**神薗　紀幸 （53） ＜令和５年４月＞ 修士（学術）**	**社会心理学**
兼任	講師	岩重　正一 （52） ＜令和５年４月＞ 博士(社会福祉学)	心理学
兼任	**講師**	**上村　真之 （52） ＜令和５年４月＞ Master of Fine Arts**	**英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ 英語ライティング**
兼任	講師	鶴　真一 （51） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	哲学
兼任	**講師**	**鶴田　啓洋 （51） ＜令和6年４月＞ 学士（社会福祉学）**	**教養特講Ⅲ**
兼任	**講師**	**前野　明子 （51） ＜令和６年４月＞ 修士（教育学）**	**生涯発達論**
兼任	講師	三木　夏華 （50） ＜令和５年４月＞ 修士(文学)	基礎中国語Ⅰ 基礎中国語Ⅱ
兼任	講師	崎向　幸江 （50） ＜令和５年４月＞ 短大2卒	代謝と栄養※
兼任	講師	上山　敬補 （49） ＜令和５年４月＞ 博士(経済学)	倫理学
兼任	講師	松本　宏明 （47） ＜令和６年４月＞ 博士（教育学）	家族看護論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	児玉谷　仁 （45） ＜令和５年４月＞ 博士(学術)	環境科学
兼任	講師	久留須　直也 （45） ＜令和６年４月＞ 修士(社会福祉学)	暮らしをまもる制度
兼任	講師	宮元　一隆 （43） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	福永　善隆 （41） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	東洋史
兼任	講師	平野　拓朗 （41） ＜令和５年４月＞ 博士（人間.環境学）	教育方法学
兼任	講師	岩穴口　孝 （41） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	看護学概論※
兼任	講師	POLLARD PERCIVAL CONSTANTINE （39） ＜令和５年４月＞ Master of Arts(米国)	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	岩川　拓夫 （38） ＜令和５年４月＞ 文学修士	鹿児島の歴史 東西文化の交流
兼任	講師	吉田　拓真 （38） ＜令和６年４月＞ 博士（理学）	保健統計学
兼任	講師	宮路　真行 （37） ＜令和６年４月＞ 法務博士（専門職）	健康をまもる法律
兼任	講師	榊原　良太 （35） ＜令和５年４月＞ 博士(教育学)	社会心理学

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	児玉谷　仁 （45） ＜令和５年４月＞ 博士(学術)	環境科学
兼任	講師	久留須　直也 （45） ＜令和６年４月＞ 修士(社会福祉学)	暮らしをまもる制度
兼任	講師	宮元　一隆 （43） ＜令和６年４月＞ 医学博士	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	福永　善隆 （41） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	東洋史
兼任	講師	平野　拓朗 （42） ＜令和５年４月＞ 博士（人間.環境学）	教育方法学
兼任	講師	岩穴口　孝 （41） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	看護学概論※
兼任	講師	POLLARD PERCIVAL CONSTANTINE （39） ＜令和５年４月＞ Master of Arts(米国)	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	岩川　拓夫 （38） ＜令和５年４月＞ 文学修士	鹿児島の歴史 東西文化の交流
兼任	講師	吉田　拓真 （38） ＜令和６年４月＞ 博士（理学）	保健統計学
兼任	講師	宮路　真行 （37） ＜令和６年４月＞ 法務博士（専門職）	健康をまもる法律

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等	担当授業科目名
兼任	講師	児玉谷　仁 （46） ＜令和５年４月＞ 博士(学術)	環境科学
兼任	講師	松下　良介 （46） ＜令和６年４月＞ 博士（医学）	健康障害とその治療Ⅱ※
兼任	講師	久留須　直也 （45） ＜令和６年４月＞ 修士(社会福祉学)	暮らしをまもる制度
兼任	講師	福永　善隆 （42） ＜令和５年４月＞ 博士(文学)	東洋史
兼任	講師	岩穴口　孝 （42） ＜令和５年４月＞ 修士（医科学）	看護学概論※
兼任	講師	島山　陽子 （42） ＜令和６年４月＞ 修士（医科学）	薬理学
兼任	講師	杉尾　由希子 （41） ＜令和６年４月＞ 修士（医科学）	薬理学
兼任	講師	POLLARD PERCIVAL CONSTANTINE （40） ＜令和５年４月＞ Master of Arts(米国)	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	岩川　拓夫 （39） ＜令和５年４月＞ 文学修士	鹿児島の歴史 東西文化の交流
兼任	講師	Aaron　Matthew　Ozment （38） ＜令和6年４月＞ 修士（国際文化学）	英語オーラル・コミュニケーションⅠ 英語オーラル・コミュニケーションⅡ
兼任	講師	吉田　拓真 （38） ＜令和６年４月＞ 博士（理学）	保健統計学
兼任	講師	野元　明日香 （38） ＜令和６年４月＞ 修士（教育学）	生涯発達論
兼任	講師	宮路　真行 （37） ＜令和６年４月＞ 法務博士（専門職）	健康をまもる法律

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任補充		
		看護管理論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任補充		
		看護管理論※

専任・兼担・兼任の別	職名	氏　　名 （年　齢） ＜就任（予定）年月＞ 保有学位等
		担当授業科目名
専任補充		
		看護管理論※

・　年齢は、**それぞれの年度の５月１日時点の満年齢**を記入してください。
・　専任（専門職大学等は専、実専、実（研）、実み）、兼担、兼任の順に記入してください。
・　不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。
・　指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「担当授業科目名」の上段に変更後のカリキュラム（新カリキュラム）の授業科目名を記入するとともに、下段に変更前のカリキュラム（旧カリキュラム）の授業科目名を記入してください。

（１）ー②担当教員表に関する変更内容

【令和５年度】

1.河口朝子教授（専任）の就任が令和５年４月から令和６年４月に遅延に伴い、河口朝子教授（専任）の〈就任（予定）年月〉及び年齢を変更。
2.河口朝子教授（専任）の就任が１年遅れたことに伴い、１年次配当科目の「健康増進看護総論Ⅲ:成人老年保健」「暮らし探索フィールドワーク」について、丹羽さよ子教授（専任）の令和５年３月　（第１回）教員審査中。
3.河口朝子教授（専任）の就任が１年遅れたことに伴い、１年次配当科目の「看護への招待」について、中俣直美准教授（専任）の令和５年３月（第１回）教員審査中。
4.西頭知子講師（専任）の年齢を、報告年度5月1日に伴い変更。
5.設置認可申請時は、大久保幸夫学長であったが、任期満了により令和５年４月の設置時から職名を学長から教授へ変更。
6.学長交代に伴い、「地域から世界へ」の科目担当を前大久保幸夫学長から小林潤司学長に変更。
7.山本晃正教授（兼担）の年齢を、報告年度5月1日に伴い変更。
8.担当教員の見直しにより、里園清孝教授（兼担）を削除。
9.教育効果を高める為に、「音楽文化論」の科目担当、現員2名から長田新太郎教授（兼担）、及川寛繁教授（兼担）及び馬原裕子准教授（兼担）の３名を新たに追加変更。
10.担当者の事情により、DAVID MCMURRAY教授（兼担）の「Global Economy and Business」の科目は、他の兼担教員が担当。
11.担当者の事情により、TOLAND SEAN HENRY教授（兼担）の「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」、「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」及び小林潤司教授（兼担）の「英語ライティング」の科目担当を上村真之（兼任）へ変更。
12.役職変更により、「ボランティア活動」の科目担当を小林潤司教授（兼担）から槙満信教授（兼担）へ変更。
13.本学の新規採用に伴い、「心理学」の科目担当に住田裕子教授（兼担）を追加。
14.木村拓准教授（兼担）、退職。
15.武藤那賀子准教授（兼担）の「日本文学」については、大学の事情により、他の兼担教員が担当。
16.濱中良助教（兼担）の退職に伴い、「スポーツ実習Ⅲ（個人種目）」の科目担当は吉本隆哉准教授（兼担）へ変更。「現代社会とスポーツ」、「スポーツ実習Ⅰ（屋内集団球技）」、「スポーツ実習Ⅱ（屋内個人球技）」、「スポーツ実習Ⅲ（個人種目）」の科目担当は加藤凌助教（兼担）に変更。
17.大野陽子講師（兼担）の退職に伴い、「海外インターンシップ」及び「Global Economy and Business」の科目は他の兼担教員が担当。
18.担当者の事情により、坂本育生講師（兼任）の「英語リーディング」と「英語ライティング」の科目担当を表正幸教授（兼担）に変更。
19.担当者の事情により、「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」の科目担当を山下孝子教授（兼担）及びDAVID MCMURRAY教授（兼担）から新福豊実講師（兼任）へ変更。
20.担当者の事情により、「外国文学」の科目担当を山下孝子教授（兼担）から丹羽佐紀講師（兼任）へ変更。
21.兼任教員辞退に伴い、「社会心理学」の担当者を榊原良太講師（兼任）から神薗紀幸講師（兼任）へ変更。
22.担当者の事情により、「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」及び「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」の担当を表正幸教授（兼担）から蒲地賢一郎（兼任）へ変更。
23.平井一臣講師（兼任）の年齢を、報告年度5月1日に伴い変更。
24.設置認可申請書類として提出した教員名簿（別記様式第３号（その２の１）について，侯德興講師（兼任）の就任時における満年齢の誤りよる修正。
25.上記25の変更に伴い、報告年度5月1日の年齢についても変更。
26.平野拓朗講師（兼任）の年齢を、報告年度5月1日に伴い変更。

【令和６年度】

1.就任年月が令和５年４月になっている教員の年齢を1つ繰り上げ。
2.河口教授の死去に伴い，削除。
3.上記2に伴い，「人間と看護」の担当者として山田巧教授を追加。令和５年11月教員審査済み。
4.上記2に伴い，「健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健」「暮らし探索フィールドワーク」の担当者として丹羽さよ子教授を追加。令和５年６月教員審査済み。
5.上記2に伴い，「成人老年健康回復ケア概論」「老年健康回復ケア論」の担当者として丹羽さよ子教授を追加。令和６年２月教員審査済み。
6.上記2に伴い，「看護への招待」の担当者として中俣直美准教授を追加。令和５年６月教員審査済み。
7.上記2に伴い，「看護展開基礎論」の担当者として中俣直美准教授を追加。令和５年11月教員審査済み。
8.上記2に伴い，「生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事例展開」の担当者として武亜希子准教授を追加。令和５年11月教員審査済み。
9.上記2に伴い，「健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護」の担当者として小玉博子准教授を追加。令和５年11月教員審査済み。
10.上記2に伴い，「健康回復看護総論実習」の担当者として小玉博子准教授を追加。令和５年11月教員審査済み。
11.上記2に伴い，「成人老年健康回復ケア概論」の担当者として野中弘美講師を追加。令和６年２月教員審査済み。
12.上記2に伴い，「看護展開基礎実習」の担当者として水迫友和助教を追加。令和５年11月教員審査済み。
13.森勝彦教授（兼担）の退職に伴い、「地理学」の科目は岩船昌起講師（兼任）が担当。
14.有松しづよ教授（兼担）の退職に伴い、「キャリア形成のための一般教養Ⅰ」「キャリア形成のための一般教養Ⅱ」の科目は，内山仁准教授（兼担）が担当。「論理的思考と数的処理」の科目は，末満一二三講師（兼任）が担当。「キャリア形成のための文章力育成」の科目は，池元正美講師（兼任）が担当。
15.「日本文学」の科目は，教育効果を高めるために村瀬士朗教授（兼担）から武藤那賀子准教授（兼担）へ担当者変更。
16.本学の事情により，「英語リーディング」「英語ライティング」の科目は，表正幸教授（兼担）から新福豊実講師（兼任）へ担当者変更。「海外インターンシップ」の科目は，他の兼担教員が担当。
17.岩下 雅子准教授（兼担）、退職。
18.福田 正彦教授（兼担）の退職に伴い、「Global Economy and Business」の科目に今村隼人准教授（兼担）を追加。
19.本学の役職人事に伴い，西宏樹准教授（兼担）を教授へ昇格。
20.本学の事情により、「スポーツ実習Ⅴ（屋外集団球技）」の科目を，加藤凌助教（兼担）が担当。
21.小林潤司学長の負担軽減に伴い、「コミュニケーションのための英文法」の科目を，坂本育生講師（兼任）が担当。
22.担当者の事情により，「健康障害とその治療Ⅰ」の科目を，中島均講師（兼任）から薗田正浩講師（兼任）へ変更。
23.担当者の事情により、「教育方法学」の科目を，平野拓朗講師（兼任）から迫田孝志講師（兼任）へ変更。
24.教育効果を高めるために，「成人老年健康回復ケア概論」「老年健康回復ケア論」の科目に水主いづみ講師（兼任）を追加。
25.担当者の事情により、「健康障害とその治療Ⅲ」の科目を，恒松良祐講師（兼任）から河野哲志講師（兼任）へ変更。
26.教育効果を高めるために，「教養特講Ⅲ」の科目に鶴田啓洋講師（兼任）を追加。
27.担当者の事情により、「生涯発達論」の科目を，飯干紀代子講師（兼任）から前野明子講師（兼任）及び野元明日香講師（兼任）へ変更。
28.担当者の事情により、「健康障害とその治療Ⅱ」の科目を，宮元一隆講師（兼任）から松下良介講師（兼任）へ変更。
29.教育効果を高めるために，「薬理学」の科目に，鳥山陽子講師（兼任）及び杉尾由希子講師（兼任）を追加。
30.教育効果を高めるために，「英語オーラル・コミュニケーションⅠ」「英語オーラル・コミュニケーションⅡ」の科目に，AaronMatthewOzment講師（兼任）を追加。

（注）・　変更内容を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
・　認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（ＡＣ教員審査）を受けてください。原則としてＡＣ教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ま
・　ＡＣ教員審査の結果、「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
・　不要な年度（令和５年度開設であれば令和４年度以前）の表は適宜削除してください。

（２） 専任教員数等

（注）・ 計画の区分が「学部等連係課程実施基本組織（学科連係課程実施学科）の設置」の場合、大学設置基準第四十二条の三の二（短期大学設置基準第三条の二）に基づく「連係協力学部等（連係協力学科）」の専任教員数について、「（２）-① 設置基準上の必要専任教員数」及び「（２）-② 専任教員等数【大学】」を連係協力学部等（連係協力学科）ごとに別ファイルで作成してください。

（２）ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における設置基準上の必要専任教員数	うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数
12 名	6 名

（注）・ 大学設置基準別表第一、短期大学設置基準別表第一イ、高等専門学校設置基準第六条第二項及び第三項又は第四項により算出される専任教員数を記入してください。

・ 高等専門学校の場合、「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授数」欄は「うち、完成年度時における設置基準上の必要教授・准教授数として、高等専門学校設置基準第八条により算出される必要教授・准教授数を記入してください。

（２）ー② 専任教員等数【大学・高専】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（A）	助手（A'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（B）	助手（B'）
8	6	4	8	26	3	7	6	4	8	25	4
(7)	(6)	(4)	(8)	(25)	(4)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教 授	准教授	講 師	助 教	計（C）	助手（C'）	教 授	准教授	講 師	助 教	計（D）	助手（D'）
7	6	4	8	25	4	8	6	4	8	26	4
[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

（注）・「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、（ ）内に開設時の状況を記入してください。

・「現在（報告時）の状況」には、報告年度の５月１日の教員数（実人数）を記入してください。

・**「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、認可で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を、届出で設置された学部等の場合は、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、完成年度までに就任することが決定している教員数を加えた数を記入**するとともに、［ ］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

・「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、［ ］内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：１名減の場合：△１）

（２）ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める定年年齢（歳）	報告時（上記（B））の教員のうち、定年を延長して採用している教員数	完成年度時（上記（C））の教員うち、定年を延長して採用する教員数
65 歳	3 名	5 名

（注）・「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の５月１日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。

・なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

（２）ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{25}{26} = \boxed{96.15}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在(報告時)の状況(B)}} = \frac{3}{25} = \boxed{12}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（２）ー⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在(報告時)の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{4}{3} = \boxed{133.33}\ \%$$

（注）・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３） 専任教員辞任等の理由

（３）－①　専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由
1	教授	河口　朝子	R5.8	必修	人間と看護	①	R5年8月に死去のため就任辞退（６）
				必修	看護への招待	①	
				必修	生活機能援助論Ⅸ：在宅展開・事	①	
				必修	看護展開基礎論	①	
				必修	看護展開基礎実習	①	
				必修	健康増進看護総論Ⅲ：成人老年保健	①	
				必修	健康回復過程論Ⅲ：人生の最期のとき・外来通院期の看護	①	
				必修	成人老年健康回復ケア概論	①	
				必修	老年健康回復ケア論	①	
				必修	健康回復看護総論実習	①	
				必修	老年健康回復ケア論実習	③	
				必修	看護統合演習	③	
				必修	暮らし探索フィールドワーク	①	
				必修	卒業研究Ⅰ	③	
				必修	卒業研究Ⅱ	③	

合計（Ｄ）				後任補充状況の集計（Ｅ）							
就任を辞退した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
1　人	必修	15	科目	必修	11 科目	必修	0 科目	必修	4 科目
	選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	15	科目	計	11 科目	計	0 科目	計	4 科目

（注）・　認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
・　「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。
就任した後に辞任した教員は、以下「（３）－②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、
「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－②　専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし					

合計（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｇ）							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）		③の合計数（c）	
0　人	必修	0	科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
	選択	0	科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
	自由	0	科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
	計	0	科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

（注）・　一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について、記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理
に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、
「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（３）－③　上記（３）－①　・　（３）－②　の合計

合計（Ｄ）＋（Ｆ）				後任補充状況の集計（Ｅ）＋（Ｇ）							
辞任等した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
1　人	必修	15	科目	必修	11	科目	必修	0	科目	必修	4	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	15	科目	計	11	科目	計	0	科目	計	4	科目

（３）－④　設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-③合計(D)+(F)}{(2)-②設置時の計画(A)} = \frac{1}{26} = 3.84\%$$

（注）・　小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。

（３）－⑤　令和５年度報告書から、新たに辞任等した専任教員等の状況

1 人

（注）・（３）－①、（３）－②で赤字で記載した専任教員数の合計数を記載してください。
・　令和６年度開設の学科等の場合、（D）＋（F）と同数を記載してください。

（３）－⑥　定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番　号	職　位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
		該当なし				

合計				後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
0　人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

（注）・　**定年により退職した全ての専任教員**について、記入してください。
・　昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び（　）書きで報告年度を記入してください。
・　また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・専任教員が担当する（している）場合は「①」
・兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
・後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

（４）専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

就任辞退（未就任）1名の担当授業科目については，AC教員審査を受審のうえ，他の専任教員が担当することで，学生に不利益なく開講できると考えている。
学生に対しては，オリエンテーションにて周知している。

（注）・　上記（３）の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

６　附帯事項等に対する履行状況等

区　　分	附　帯　事　項　等		履　行　状　況		今後の の実施計画
認　可　時 （令和４年）	１.二以上の校地において教育を行うことから、学生及び教員の教育研究等に支障のないよう留意すること。また、学生の課外活動等にも配慮すること。	【認可】遵守事項	看護学部の教育内容による教育効果を勘案して、既設の坂之上キャンパスでは主に共通教育科目を行い、伊敷キャンパスでは専門教育科目を開講した。また、教育を行うに際して、学生の移動への負担を軽減するために時間割上で曜日ごとに同一キャンパスで履修できるように編成し、学生が一日の中でキャンパス間の移動をすることがないようにした。 看護学部の専任教員は、伊敷キャンパスに配置し、担当する科目全て伊敷キャンパスで行っているため、教員のキャンパス間移動は発生していない。また、全学の会議は、看護学部の専任教員が坂之上キャンパスに移動し会議に参加しているが、必要に応じてWeb会議を開催し研究室や会議室からWeb上で会議に参加できるようにし、教員の負担を少なくしている。（５） 令和６年４月１日から、伊敷キャンパスで活動するサークル（園芸愛好会）が発足し、キャンパス内の美化活動に取り組んでいる。（６）	履行済	看護学部学生の課外活動（学友会活動）については、坂之上キャンパスで行われているサークル活動に参加しているが、伊敷キャンパス内において新たなサークルを発足するまではいたっていない。今後、伊敷キャンパスの屋内運動場等を活用したサークルを発足させ、坂之上キャンパスの関係するサークルと積極的に交流させるなどサークル活動が活性化する対応をとる。（５）
認　可　時 （令和４年）	２.専任教員資格審査の結果により、教員の補充が必要とされた授業科目については、確実に教員を補充させること。	【認可】遵守事項	「看護管理論」の最初の開講は2026年（４年次）前期となっているため、2025年度には科目担当者を申請し、審査を受ける予定である。現在は担当予定者に対し、当該分野の研究業績を獲得できるように支援を行っている。（５）（６）	履行中	「看護管理論」の最初の開講は2026年（４年次）前期となっているため、2025年度には科目担当者を申請し、審査を受ける予定である。（５）（６）
認　可　時 （令和４年）	３.完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について着実に実施すること。	【認可】遵守事項	看護学部の教員組織は、開設時の令和５年度に28名の教員が着任予定であったが、１名の教員が就任を１年遅らせ27名の教員が着任した。令和６年度には、計画通り全教員30名が着任する予定である。完成年度における教員の年齢構成は、70歳以上２名、66歳以上４名、65歳以下４名、50歳代５名、40歳代11名であり、助手４名は全員30歳代となる。鹿児島国際大学の定年は満65歳となっているが、看護学部の設置にあたって、「鹿児島国際大学教育職員の定年の特例に関する規程」により、完成年度末日の年齢を定年の年齢とすることを定めたため、完成年度まで教育水準の維持向上及び教育研究の活性化において支障は生じない。また、教育研究を発展的に継承できる中堅・若手教員を育成できるように、全専門分野の助教・助手の研究室を共同として整備した。この他、各専門分野のゼミ室を中心に当該分野の教授、准教授、講師の研究室を配置した。これにより若手教員が看護職にとって研究活動は不可欠なものであり、どのように研究活動を行うのかを学べる環境を整備できた。（５） 令和６年度着任予定であった教授	履行中	看護学部の教員組織編制の将来構想については、完成年度における退職教員の後任を内部昇格により補充できる体制とする。具体的には、看護学の専門分野別に教育研究体制を基本として教授を中心に本務に支障のない範囲で博士の学位取得できるように推奨し、支援する。この他、各専門分野ごとに配置したゼミ室において、文献学習や調査結果の報告、学会発表の予演会等を実施するなどしてゼミ室を専門分野の研究活動の拠点とし、日常的に研究活動に取り組むようにする。加えて、科学研究費補助金などの外部からの研究費の申請と獲得を積極的に支援し、研究活動の活性化を図る計画である。しかし、内部補充が困難な場

			（66歳以上）１名が、死去したため就任辞退となった。当該教授の着任延期、及び就任辞退に当たっては後任補充を行うまで、AC教員審査を受けた教員により教育を行い、看護学部の教育水準の維持向上に取り組んでいる。そして、認可時の計画に副い、教育研究の発展を図るべく引き続き後任補充に取り組み完成年度までには補充を行う予定である。後任補充の際には、教員組織編制の将来構想に基づき、年齢構成にも留意して補充を行う予定である。また、後任補充をするまでの間は、AC教員が教育水準を担保する計画である。（６）		合は、公募により幅広く候補者を募り、鹿児島国際大学の定める教員審査基準に則って後任を採用する計画である。（５）（６）

（注）・　「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）　と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

・　認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。

【令和５年度報告書から記載内容に変更がある場合】

令和５年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

【令和５年度報告書から記載内容に変更がない場合】

令和５年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。

【令和６年度から新たに調査対象となった学科等又は令和５年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】

「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入**してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。

・　「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。

・　該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。

・　「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

７　その他全般的事項

＜看護学部　看護学科＞

（１） 設置計画変更事項等

設　置　時　の　計　画	変更内容・状況、今後の見通しなど
①　入試区分 学校推薦型選抜試験 ・同一学園推薦型選抜（募集人員5） ・学校推薦型選抜Ｃ（同25）	①受験生の受験機会を高めるために変更 学校推薦型選抜試験 ・学校推薦型選抜Ｂ（募集人員15） ・同一学園推薦型選抜（同5） ・学校推薦型選抜Ｃ（同10）
②入試選考方法に関わる選択科目 一般選抜の選択科目「日本史B」「世界史B」「地理B」「政治・経済」「現代社会」「数学Ⅰ・数学A」	②入学後の学習内容を鑑みて、左記選択科目に「生物基礎・生物」「化学基礎・化学」を追加

（注）・　１～６の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

（２） 教員の資質の維持向上の方策（ＦＤ・ＳＤ活動含む）

①　実施体制

ａ　委員会の設置状況

・　研究教育開発センター会議

・　看護学部FD委員会

ｂ　委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

・　研究教育開発センター会議

①研究教育開発センター長、副センター長、センター次長と各学部センター員7名の計10名で、原則月1回開催

・　看護学部FD委員会

①看護学部FD委員5名で月に1回開催

ｃ　委員会の審議事項等

・　研究教育開発センター会議

①教育の質向上に向けた諸施策の企画・立案 ②教職員の研修、講演会の企画・実施 ③その他、センターの目的達成のために必要な事項

・　看護学部FD委員会

①FDの基本方針の策定に関する事項 ②FDの実施に関する事項 ③その他、委員会が必要と認めた事項

②　実施状況

ａ　実施内容

・　全学FD

①授業アンケートの実施（中間授業アンケート、学期末授業アンケート、学生の学修時間・学修行動を把握するアンケート）

②授業公開・授業参観

③FD・SD合同研修会・講演会

④教員提案

・　看護学部FD

①授業案検討・ブラッシュアップ（生活機能援助論Ⅴ～Ⅸ、新入生ゼミナール、看護への招待、看護展開基礎論）

②教員相互の授業参観（生活機能援助論、新入生ゼミナール、看護への招待、看護展開基礎論）

③臨床判断に基づく看護実践の思考育成FD

④FD研修会・講演会

b　実施方法

・　全学FD

①研究教育開発センター会議で審議した研究教育開発センター活動方針に基づいて実施

・　看護学部FD

①看護学部FD委員会で作成したFD計画に基づいて実施

c　開催状況（教員の参加状況含む）

・　全学FD

①授業アンケートの実施

中間授業アンケート 前期：5月7日～5月18日、後期：10月中旬実施予定

学期末授業アンケート 前期：7月8日～8月9日、後期：1月下旬～2月上旬実施予定

学生の学修時間・学修行動を把握するアンケート 後期:2～3月実施予定

②授業公開・授業参観

前期：6月上旬～7月下旬実施予定、後期：11月下旬～12月下旬実施予定

③FD・SD合同研修会・講演会

前期：7月上旬開催予定、後期：12月及び2月開催予定

④教員提案

提案受付：4月1日～5月31日、採択提案の実施期間：6月～1月末

・　看護学部FD

①別紙「看護学部FD計画・教室使用予定表」参照（看護学部全教員参加）

d　実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

・　全学FD

①授業公開・授業参観…参観者は、担当教員へ授業の感想や参観者の授業改善に役立つ点を記載した授業参観記録を提出している。これを参考に担当教員は授業改善に取り組んでいる。

②FD研修会・講演会…全学で授業改善に関する課題や問題を共有し、これを踏まえ、各教員は今後の授業改善に取り組んでいる。

・　看護学部FD

①「生活機能援助論」「看護展開基礎論」「新入生ゼミナール」の授業内容を踏まえ、次週に実施する授業内容を検討し改善を行っている。

③　学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a　実施の有無及び実施時期

・　全教員（専任教員及び非常勤講師）の授業を対象に中間授業アンケートと学期末授業アンケートをそれぞれ前・後期の中間期と学期末の時期に実施している。（学期末授業アンケートでは演習・実習は対象外）

b　教員や学生への公開状況、方法等

・　各教員がアンケート結果を基にした今後の授業改善に対する所見を記載した報告を授業アンケート結果として冊子にまとめ、学内各所に配置し、学生や教職員に公開している。

（注）・「①a　委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（３） 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

（４） 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

看護学部は，看護学を発展させるための専門的な教育研究を行い，あらゆるいのちに思いやりと関心を持ち，その尊敬を護りつつ，倫理的・科学的態度を基に，人々の健康的な暮らしの実現に向けて，看護できる人材を養成することを目的とし，この目的に基づき，「いのちをとうとび，はぐくみ，つなぐことを基本姿勢とし，人々が地域において健康的な暮らしを営めるように，よりよい健康課題の解決法を探究しつつ取り組むことができる看護職」を人材養成像とし，その養成に取り組むこととしている。

令和６年度入学者数は，入学定員80名に対し，73名であった。引き続き積極的な広報活動による志願者確保を行い，入学定員の充足に努めたい。

設置の趣旨・目的の達成に向けては，１年次においては，保健師・看護師教育課程を一体化した体系的な教育課程として，看護の対象を地域で生活する人として捉える視点を獲得できるよう，フィールドワーク等において，地域とのつながりを大切にした教育の実施に努めた。開設１年目であり，十分に評価できる段階にないが，養成する人材像と３ポリシー（ディプロマ・ポリシー，カリキュラム・ポリシー，アドミッション・ポリシー）の相関に基づく教育を行うことで，設置の趣旨・目的を達成できるものと考える。今後も学年進行に従って，教員組織及び教育課程をはじめとする設置計画を確実に履行したい。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和６年５月31日　公表（予定）

b 公表方法

・大学ホームページ上に公開予定（令和６年５月末を予定）

③ 認証評価を受ける計画

（専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院については、機関別認証評価と分野別認証評価それぞれの受審計画について記載してください。）

・令和８年度に評価機関（公益財団法人大学基準協会）の評価を受けるべく、学内で検討中

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

（５） 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和６年度）

a 公表予定の有無 〔 (有) ・ 無 〕

≪ａで「有」の場合≫

b 公表（予定）時期 〔 [調査結果公表後１ヶ月以内] ・ 公表後２～３ヶ月以内 ・ 公表後３ヶ月以降 〕

c 公表方法 〔 [ウェブサイトへの掲載] ・ その他（ ） 〕

≪ａで公表「無」の場合≫

d 公表しない理由 〔 〕

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、
設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイトに公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。